



次なる
茨木へ。

茨木には、次がある。

次期環境基本計画 の策定に向けた検討状況の報告

茨木市環境審議会資料

2024年3月

資料4-1-1

計画策定の趣旨

- ① 「第2次環境基本計画」（以下“現行計画”）を平成27年度（2015年3月）に策定し、環境の保全に関する施策を総合的・計画的に推進しています。
- ② 社会情勢の変化に適応するため、また、現行計画が令和6（2024）年度で終了するため、次期環境基本計画（以下“次期計画”）の策定を進めます。
- ③ 2015年以降の『国内外の新たな環境枠組み』との整合を図ります。
- ④ 茨木市の関連計画（次期総合計画、地球温暖化対策実行計画など）との整合を図ります。

資料4-1-2

環境基本計画の位置づけ

- 環境基本計画の基本理念のもと、環境の保全及び創造に関する施策を総合的かつ計画的に推進するため策定します。
- 上位計画「（仮称）第6次茨木市総合計画（現在検討中）」と整合を図ります。
- 関連計画（一般廃棄物処理基本計画、地球温暖化対策実行計画等）と整合を図ります。

資料4-1-3

策定体制

- 次期計画の策定は、環境基本条例に基づき、学識経験者、各種団体の関係者、市民委員など12名で構成する「茨木市環境審議会」で審議します。



資料4-1-4

本日の報告内容

- 1 次期計画の概要
- 2 策定スケジュール
- 3 策定の主な方針
- 4 検討状況

資料4-1-5

本日の資料の方向性

次期計画について以下の観点のもと検討しました。

- ・本市の特性の把握
- ・国際条約・法・条例との整合
- ・社会情勢の変化や新たな環境問題への対応

資料4-1-6

次期計画の概要

- 1 名称
 - ・（仮称）第3次茨木市環境基本計画
 - ・副題は令和6年度に検討
- 2 対象地域
茨木市全域
- 3 計画期間
令和7(2025)年度から令和16(2034)年度
までの10年間
- 4 対象範囲
茨木市環境基本条例第7条1～5項に定められた
項目を基本とする（次ページ参照）

資料4-1-7

対象範囲 ～茨木市環境基本条例 第7条では～

- (1) 大気、水、土壌等を良好な状態に保持することにより 人の健康を保護し、及び 生活環境を保全すること並びに地域の特性を活かした 良好な都市景観の形成等により 快適な都市環境を創造すること。
- (2) 野生生物の生息及び生息環境への配慮等により 豊かな生態系を保持すること、河川、森林等の自然環境を適正に保全すること及び 人と自然との豊かな触れ合いを保つこと。
- (3) 廃棄物の減量、資源の循環的な利用、エネルギーの効率的利用その他の 省資源及び省エネルギーを徹底することにより、天然資源の消費を抑制すること。
- (4) 市、事業者及び市民すべてが、事業活動及び日常生活において環境に十分に配慮するなど自主的かつ積極的に行動することにより、環境への負荷を低減すること。
- (5) 地球温暖化の防止、オゾン層の保護等に積極的に取り組むことにより、地球環境を良好な状態に保持すること。

資料4-1-8

～環境基本計画の変遷～

	策定年月	計画期間	環境像	環境目標（基本政策）
第1次	平成16年3月 (2004年)	平成16年度 ～平成27年度 (12年間)	人と環境にやさしい都市 (まち) 茨木	<ul style="list-style-type: none"> 良好な地域環境の確保 人と自然との共生 循環型社会の構築 地球環境の保全 市・市民・事業者の協働
第2次	平成27年3月 (2015年)	平成27年度 ～平成36年度 (10年間)	心がけから行動へ みんなで創る環境にやさしいまち	<ul style="list-style-type: none"> いごちの良い生活環境をたもつ バランスのとれた自然環境をつくる ライフスタイルの見直しで低炭素なまちをめざす きちんと分別で資源の循環をすすめる
第3次	令和7年3月 (2025年)	令和7年度 ～令和16年度 (10年間)	(未定)	(検討中) <ul style="list-style-type: none"> 脱炭素社会 自然環境 (生物多様性) 資源循環 生活環境

資料4-1-9

策定スケジュール

令和6年度中の答申、決裁に向けて作業を進めます。

スケジュール案

年度	R5						R6														
月	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
次期計画			素案						原案					修正案						答申案	
審議会								●		●	●	●		●		●				●	●
市民ほか	←→アンケート																				←→パブコメ

資料4-1-10

策定の主な方針

- 1 関連計画との整合が図られた計画
 - ・（仮称）第6次総合計画（茨木市）
 - ・緑の基本計画（茨木市）
 - ・一般廃棄物処理基本計画（茨木市）
 - ・地球温暖化対策実行計画（茨木市）
 - ・都市計画マスタープラン（茨木市）
など
 - ・第6次環境基本計画（環境省）
など国・府の計画

資料4-1-11

- 2 SDGsの視点を取り入れた計画
17の国際目標のうち次期計画の項目
と関連が強いものに表示

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



資料4-1-12

- 3 変化に対応した計画

社会情勢の変化により見直しが必要と考えられる環境指標について、検討・見直しを図ります。

(例)

資源回収量：ごみの総量減少に伴い増えない
ごみ収集経費：原油価格上昇の影響が大きい
鉄道利用者数・バス利用者数：より環境に優しい在宅勤務がマイナス評価になる
新しい指標の検討：フードロスなど

資料4-1-13

検討状況

- 1 環境目標（基本政策）の案

- ① 脱炭素社会
- ② 自然環境（生物多様性）
- ③ 資源循環
- ④ 生活環境

名称は令和6年度に検討します。

資料4-1-14

2 国内外の最新動向の整理

年月	名称	発行元	備考、トピック、キーワード
2024.4(予定)	第6次環境基本計画	国	
2023.5	気候変動適応計画 改正	国	熱中症対策の追加
2023.3	生物多様性国家戦略	国	30by30、OECD、2030年ネイチャーポジティブ
2022.3	大阪府生物多様性地域戦略	大阪府	
2022.3	茨木市緑の基本計画(中間見直し)	茨木市	
2021.10	地球温暖化対策計画改訂	国	2050年までにカーボンニュートラル、令和12年度(2030年度)までに平成25年度(2013年度)と比較して温室効果ガスの46%の削減、更に50%の高みを目指して挑戦し続ける、という目標
2021.10	COP26	国連	温室効果ガス排出量実質ゼロ目標
2021.10	第6次エネルギー基本計画	国	発電に利用するエネルギー(LNG、石油、各種再生可能エネルギー等)の構成比についての2030年に再生可能エネルギー(太陽光、風力、バイオマス等)は約36~38%程度を目指す。(2019年度の構成比は18%程度)
2021.6	プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律	国	
2021.6	水循環基本法(一部改正 地下水の適正な保全・利用)	国	
2021.3	2030大阪府環境総合計画	大阪府	
2021.3	大阪府地球温暖化対策実行計画		
2021.3	大阪ブルー・オーシャン・ビジョン実行計画	大阪府	
2020.10	2050年カーボンニュートラル宣言	国	
2020.3	茨木市都市計画マスタープラン(中間見直し)	茨木市	
2019.6	大阪ブルー・オーシャン・ビジョン	G20	大阪サミット。海洋プラスチックごみによる新たな汚染を2050年までにゼロにすることをめざす。
2019.5	プラスチック資源循環戦略	国	
2018.6	第四次循環型社会形成推進基本計画	国	
2018.6	海岸漂着物処理推進法	国	

資料4-1-15

2 国内外の最新動向の整理

年月	名称	発行元	備考、トピック、キーワード
2018.4	第5次環境基本計画	国	①地域循環共生圏の創造、②世界の範となる日本の確立、③①②を通じた持続可能な循環共生型の社会(環境・生命文明社会)の実現 がめざすべき社会の姿
2018.10	IPCC1.5℃特別報告書	国連ほか	地球温暖化を1.5℃で止めるには、2030(R12)年までに世界全体の二酸化炭素排出量を2010(H22)年度比で約45%削減し、2050(R32)年前後には正味でゼロにする必要がある。
2018.3	高等学校学習指導要領	国	「持続可能な社会の創り手」の育成
2018.2	気候変動適応法	国	
2017.3	幼稚園教育要領、小・中学校学習指導要領	国	「持続可能な社会の創り手」の育成
2016.3	茨木市緑の基本計画	茨木市	
2015.9	SDGs	国連	国連サミット
2015.12	パリ協定 COP21		世界的な平均気温上昇を産業革命以前に比べて2℃より十分下方に保つとともに、1.5℃に抑える努力を追求すること」を世界共通の長期目標とする
2015.3	茨木市都市計画マスタープラン	茨木市	
2015.3	茨木市環境基本計画 第2次	茨木市	
2012	都市の低炭素化の促進に関する法律(エコまち法)	国	
2012	生物多様性国家戦略 2012-2020		
2011.3	東日本大震災	-	
2010.10	愛知目標 名古屋議定書 COP10	国連	
2008	地球温暖化対策の推進に関する法律	国	
2004	茨木市環境基本計画 第1次	茨木市	
2003	茨木市環境基本条例	茨木市	
2000	循環型社会形成推進基本法	国	これ以降、建築資材、自動車、家電、小型家電、容器包装プラスチックなど、様々な品目の特性に応じたりサイクル法が制定された。

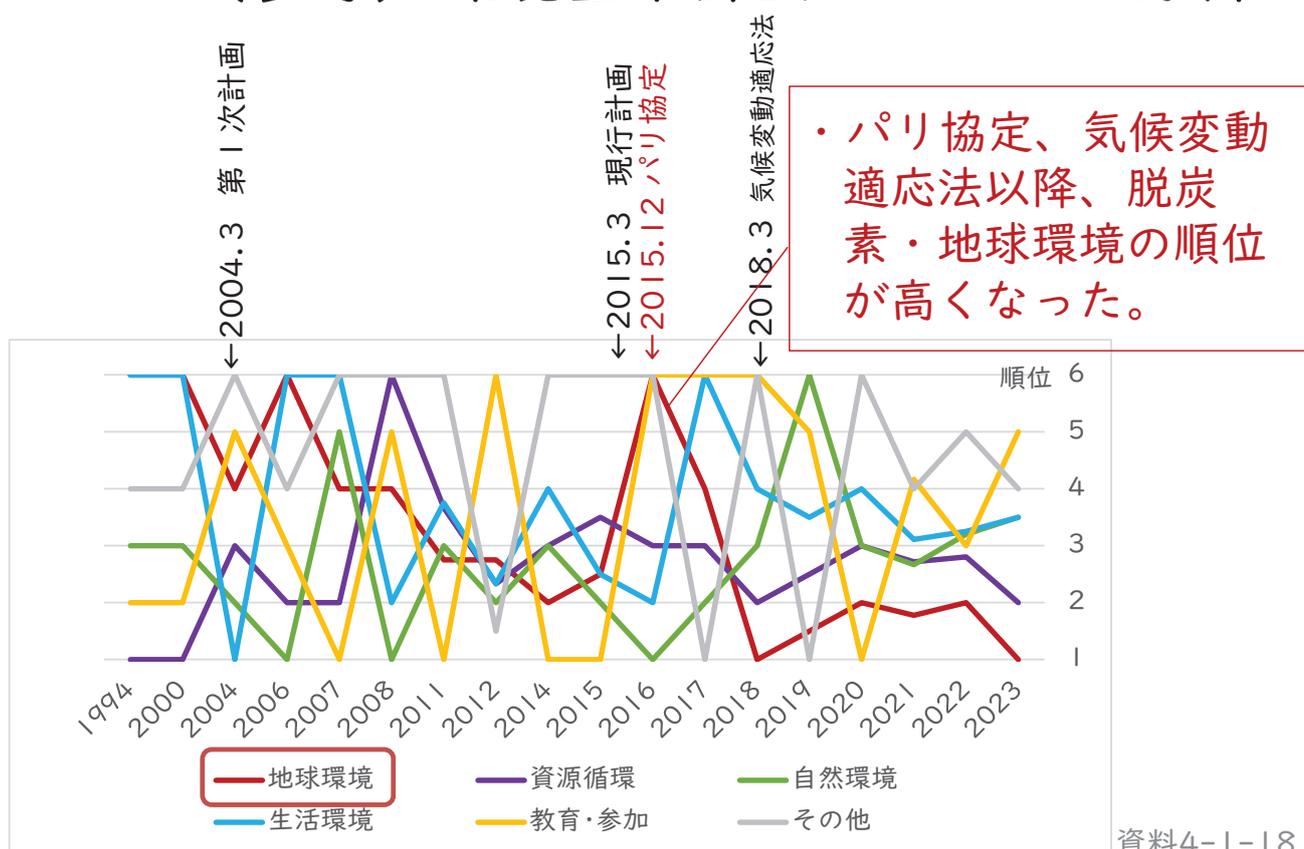
資料4-1-16

- 3 (参考) 環境基本計画のトレンド分析
 - 大阪府や周辺都市の近年の順位トレンドは以下のとおり

- 1 脱炭素・地球環境・気候変動
- 2 資源循環
- 3 自然環境・生物多様性
- 4 生活環境・安全安心

資料4-1-17

- 3 (参考) 環境基本計画のトレンド分析



資料4-1-18

4 総合計画の検討状況把握

- 環境基本計画に大きく関わる項目（生活環境、自然環境、低炭素、資源循環）の構成を確認し、整合を図りながら策定を行います。

将来像6 環境

※本骨子案は現時点での案であり、今後これを基に議論を深めてまいります。

市民の声	将来像
<ul style="list-style-type: none">子どもを中心に興味を持てる環境フェアが増えて欲しい（40代男性）環境教育が不徹底に感じる（70代男性）まち全体を通して捨てられている空き缶やゴミが多く、住んでいて癒されない（40代女性）環境に優しくて綺麗なまち（10代女性）自然な場所(川など)で子どもと遊べる場所が少ない（40代男性）街中に溶け込むような豊かな緑を感じ全ての世代が癒される公園、緑地、自然が少ない（50代女性）	<ul style="list-style-type: none">◆ 環境について学び、みんなで作る環境のまち 地球規模の環境問題から茨木での環境取組についても学ぶことで、茨木市における理想の環境の姿を考えるなど、環境教育が充実し、一人ひとりの意識が高まり、行動に結びついているまちをめざします。◆ 一人ひとりの小さな行動を支える、環境に優しいきれいなまち まちの美化や脱炭素化の推進、環境への負荷を軽減する資源循環等、様々な観点での「きれいなまち」を実現するために、一人ひとりが実際に行動に移しているまちをめざします。◆ 自然を身近に感じて暮らせるまち 北摂山系の豊かな自然が守られ、まちなかに身近な緑があふれることで、多様な動植物と触れ合うことができ、癒しや健康の増進などにつながり、快適な暮らしができるまちをめざします。

次期総合計画策定の状況について（令和6年2月）より抜粋

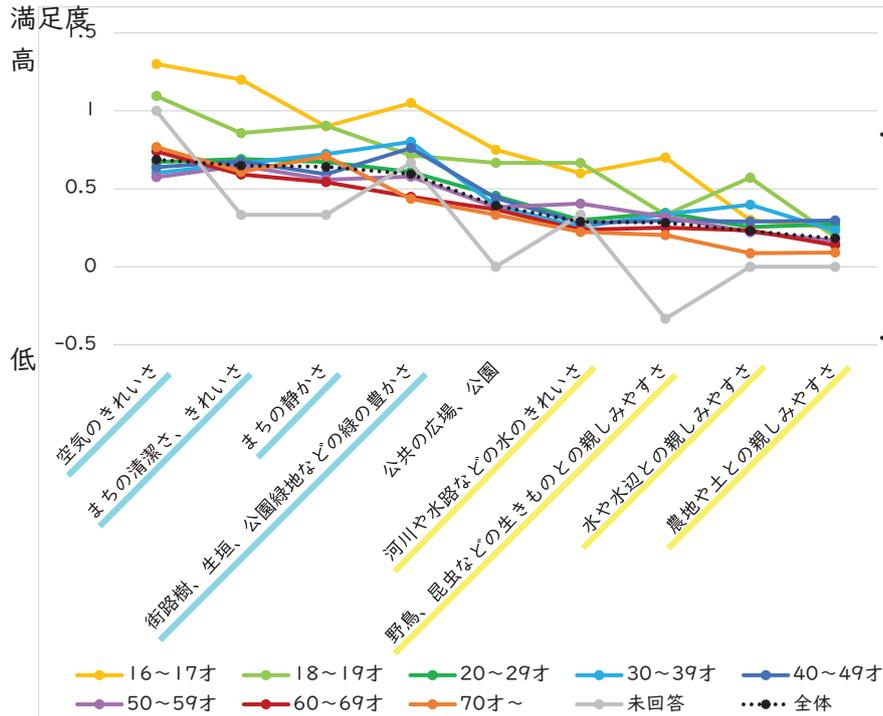
資料4-1-19

5 アンケート結果の分析 ⇒資料4-2

- 茨木市の課題は、都市部における自然環境へ満足度が低いことと、生物多様性の認知度が低いこと。
- 自然環境・生物多様性の順位を上げる必要がある。

資料4-1-20

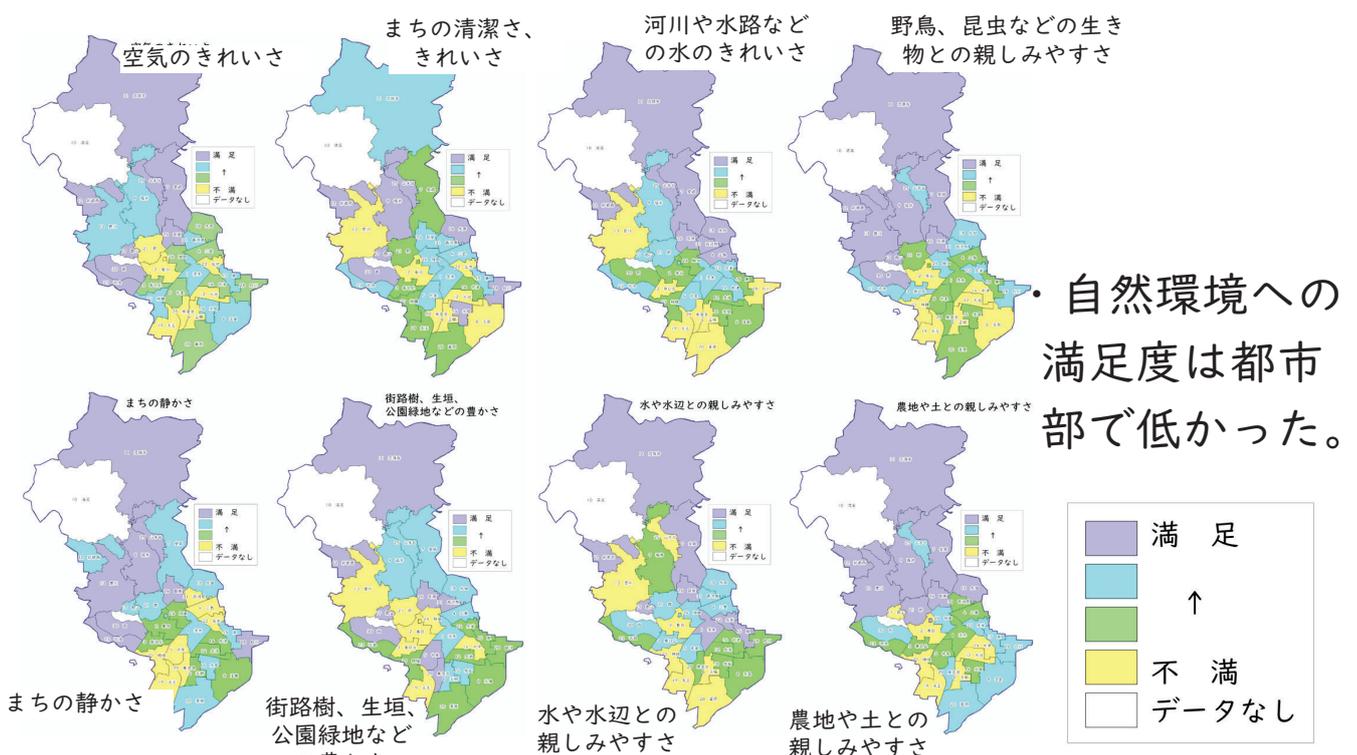
• 5 アンケート結果の分析 ⇒資料4-2



- 比較的満足度が高かった項目は、“空気のきれいさ”、“まちの静かさ”、“まちの清潔さ、きれいさ”、“緑の豊かさ”であった（水色下線）。
- 比較的満足度が低かったのは、“河川や水路などの水のきれいさ”、“水や水辺との親しみやすさ”、“農地や土との親しみやすさ”、“野鳥、昆虫などの生きものとの親しみやすさ”であった（黄色下線）。

資料4-1-21

• 5 アンケート結果の分析 ⇒資料4-2



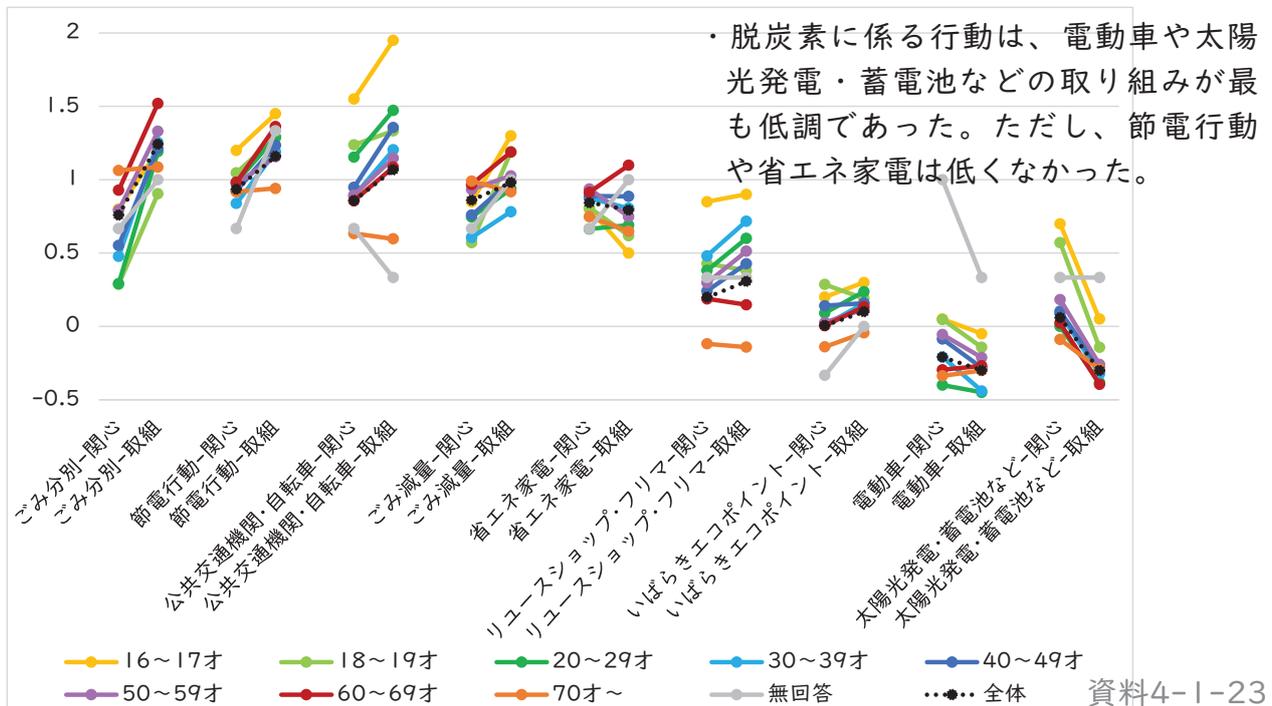
- 自然環境への満足度は都市部で低かった。

資料4-1-22

5 アンケート結果の分析 ⇒資料4-2

・環境配慮行動への関心・取組状況をスコア化した結果

・ごみの分別・減量など資源循環に係る行動は相対的に高調であった。

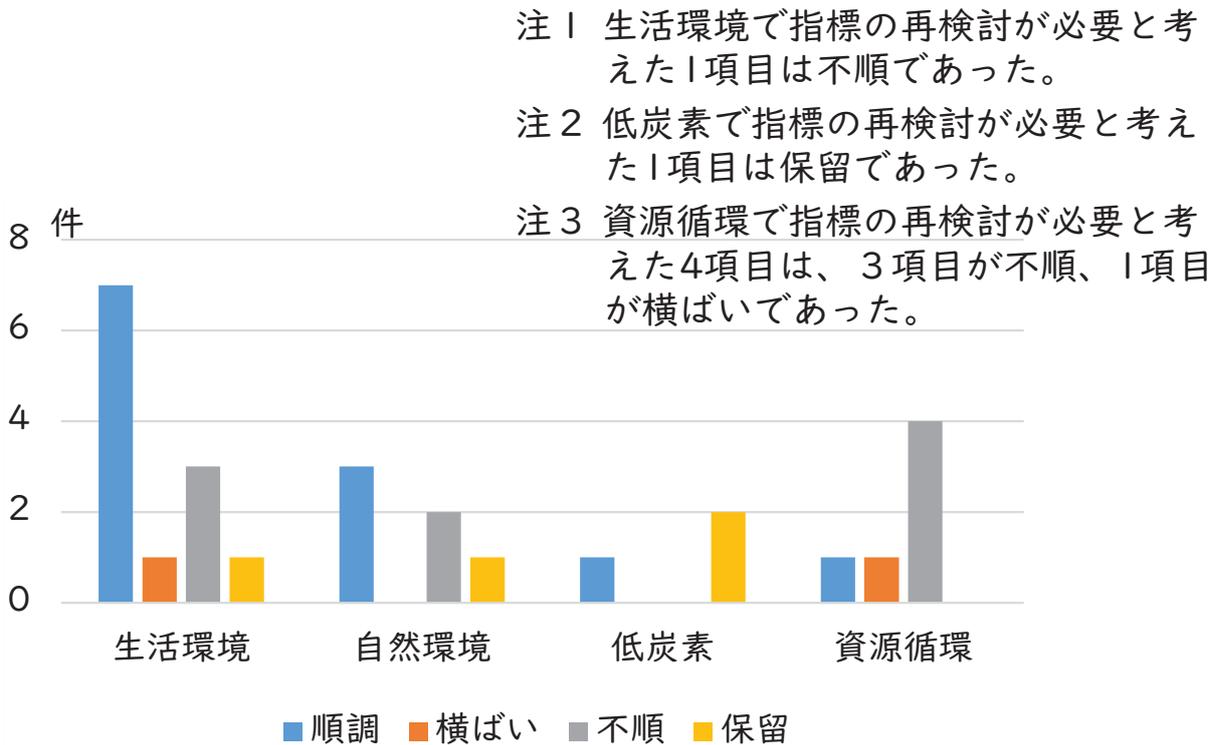


6 環境指標（現行計画）の達成状況

令和5（2023）年度版いばらきの環境（案）から環境指標の達成状況を整理した

- ・生活環境は達成率が高く、自然環境は達成率が低かった（相対的に自然環境の課題が大きい）。
- ・低炭素は、新型コロナウイルス感染拡大や世界情勢に起因する原油高の影響のため判断を保留すべき項目が多く、達成状況の判断は困難であった。
- ・低炭素と資源循環は、環境指標の見直しが必要な項目の割合が高く、達成状況の判断は困難であった。

6 環境指標（現行計画）の達成状況



資料4-1-25

7 検討結果のまとめ

基本政策（現行計画）	1 生活環境	2 自然環境	3 低炭素	4 資源の循環
国内外の最新動向の整理			脱炭素は世界共通で喫緊の課題	
環境指標（現行計画）の達成状況	生活環境は達成率が高かった	生活環境よりも自然環境の課題が大きい		
アンケート結果の分析	生活環境は満足度が高い	都市部で自然環境の満足度が低い	電動車・太陽光発電への市民の取組みは低調	資源循環に係る市民の関心・取組みは高調
環境基本計画のトレンド			脱炭素・地球環境の順位が最も高い	
第6次環境基本計画	?	?	?	?

- ここまでの検討結果から、基本政策の優先順位に係る結果を整理した。
- 総合的に**自然環境**と**低炭素（脱炭素）**の順位を上げることが妥当と考えた。

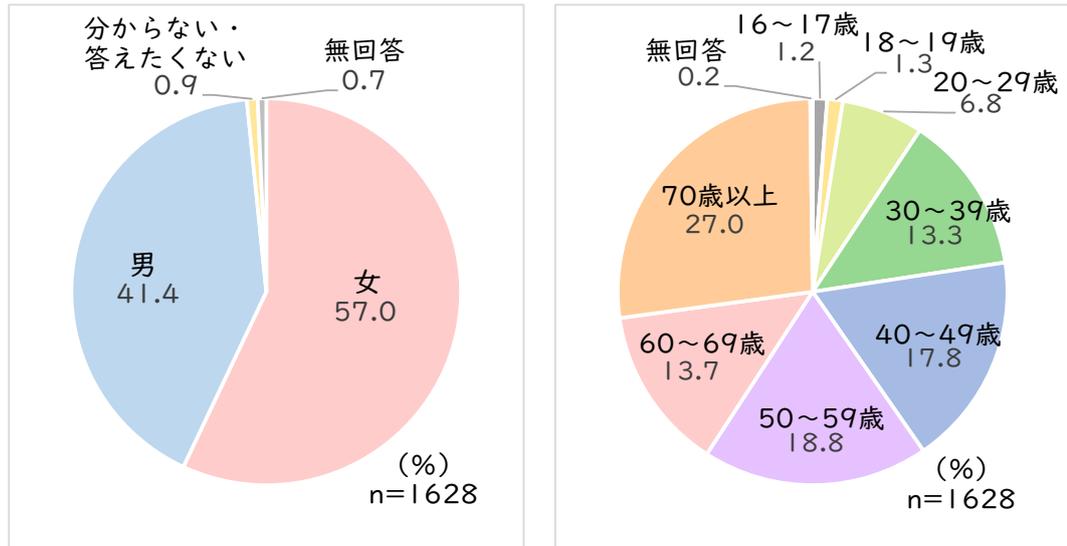
資料4-1-26

アンケートの集計・分析結果

I 回答者属性

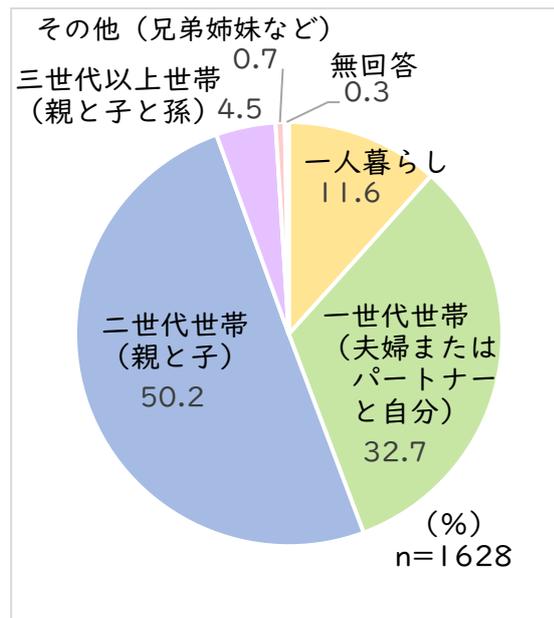
I-1 性別・年齢

問1 あなたの性別・年齢について、教えてください。



I-2 家族構成

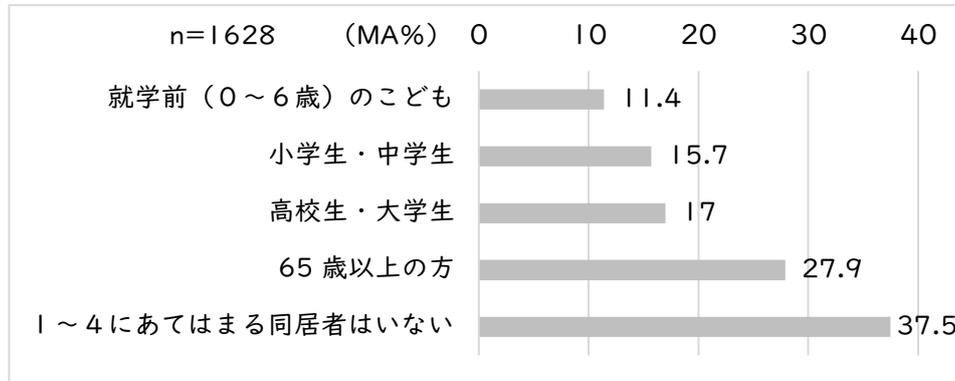
問2 あなたの家族構成について、あてはまるものに1つだけ○をつけてください。



資料 4-2

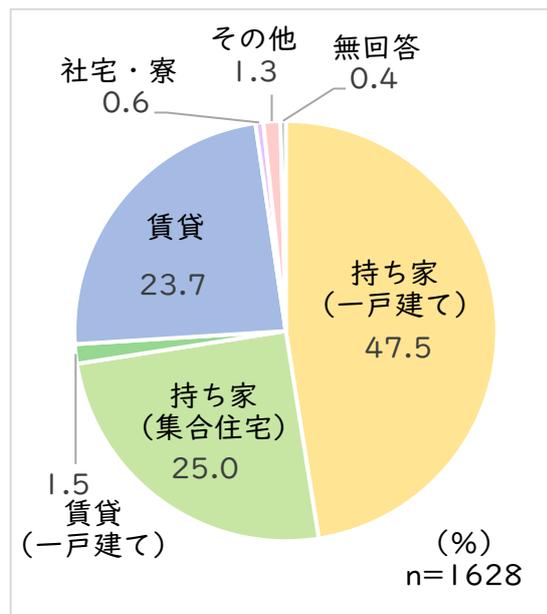
1-3 同居する子ども・高齢者

問3 下記のようなご家族と同居していますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。



1-4 住居携帯

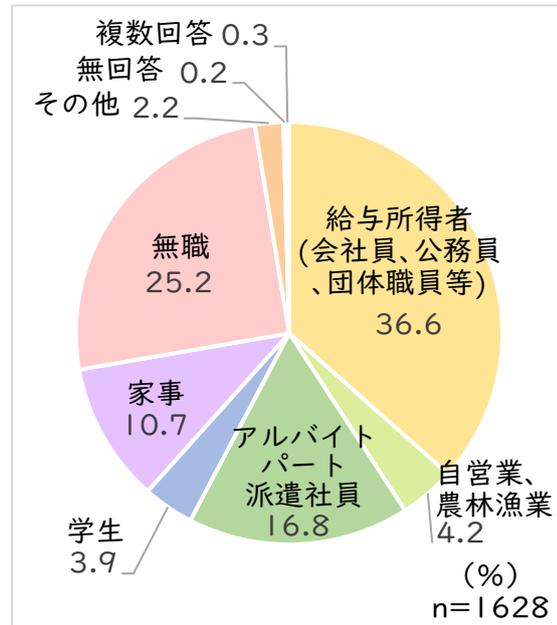
問4 あなたがお住まいの住宅の種類について、あてはまるものに1つだけ○をつけてください。



資料 4-2

1-5 職業

問5 あなたの職業(兼業の場合は主なほう)について、あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

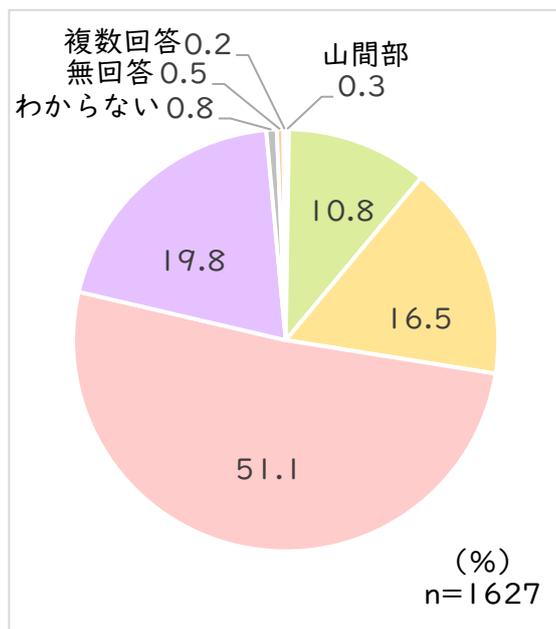
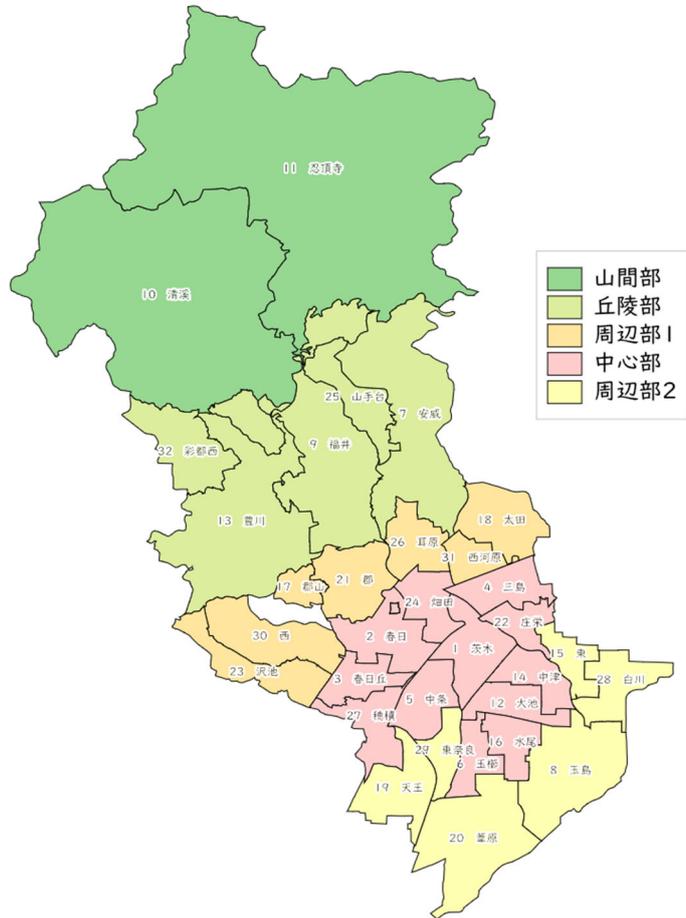


資料 4-2

1-6 居住する地区と小学校区

問6 あなたはどの小学校区にお住まいですか。あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

地区	小学校区	回答数	構成比
山間部	清溪	—	—
	忍頂寺	4	0.3
	小計	4	0.3
丘陵部	安威	25	1.5
	福井	28	1.7
	豊川	17	1.0
	山手台	45	2.8
	彩都西	60	3.7
	小計	175	10.8
周辺部1	郡山	15	0.9
	太田	68	4.2
	郡	30	1.8
	沢池	51	3.1
	耳原	42	2.6
	西	31	1.9
	西河原	32	2.0
	小計	269	16.5
中心部	茨木	122	7.5
	春日	83	5.1
	春日丘	62	3.8
	三島	53	3.3
	中条	105	6.5
	玉櫛	53	3.3
	大池	101	6.2
	中津	75	4.6
	水尾	60	3.7
	庄栄	41	2.5
	畑田	22	1.4
	穂積	55	3.4
	小計	832	51.1
	周辺部2	玉島	40
東		51	3.1
天王		72	4.4
葦原		61	3.8
白川		52	3.2
東奈良		47	2.9
小計	323	19.8	
わからない		13	0.8
無回答		8	0.5
複数回答		3	0.2
合計		1627	100.0



2 茨木市内の活動への参加状況について

2-1 茨木市内の活動への参加状況について

問 16 あなたは、茨木市内でどのような活動に参加されていますか。（あてはまるものすべてに○）

“自然保護や環境保全”への参加割合は1.8%であった。選択肢12項目の内10番目の割合であり、参加状況は低いと考えられた。

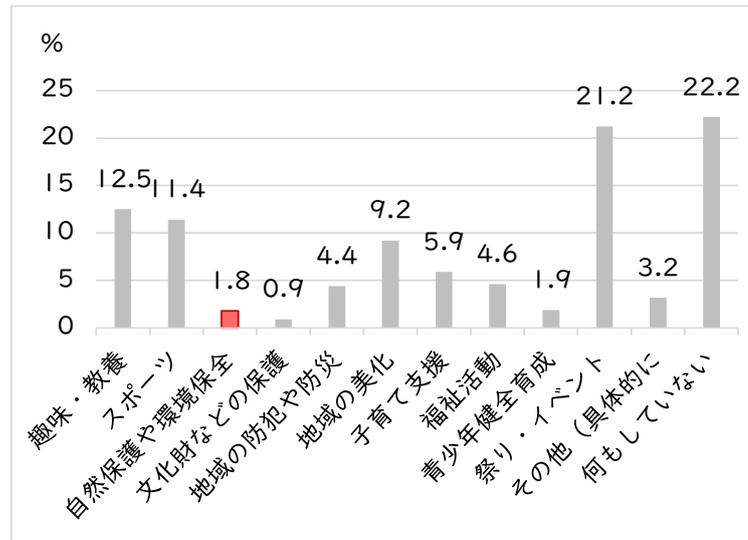


図 茨木市内の活動への参加割合

経年比較の結果、H30年度は1.8%、H24年度は2.3%であり、低水準が続いていることが明らかになった。

3 環境に関する取組について

3-1 茨木市の環境の現状に対する満足度と期待度

問 30 茨木市の環境の現状に対する満足度と今後の充実への期待度について、あなたの考えに最も近いものを教えてください。（各項目、あてはまるもの1つに○）

設問の回答を下表のとおり点数化し、1～4の項目の満足度と期待度の平均値をグラフ化した。

表 問 30 の回答の点数表

項目	現状への満足度					今後の充実への期待度				
	満足	やや満足	わからない	やや不満	不満	満足	やや満足	わからない	やや不満	不満
1 いごちの良い生活環境をたもつ （大気や水質、化学物質、美化活動など）	2	1	0	-1	-2	2	1	0	-1	-2
2 バランスのとれた自然環境をつくる （身近な緑の保全、里地里山、生きものの観察会や外来生物対応など）	2	1	0	-1	-2	2	1	0	-1	-2
3 ライフスタイルの見直しで低炭素なまちをめざす （省エネルギー活動、太陽光発電導入など）	2	1	0	-1	-2	2	1	0	-1	-2
4 きちんと分別で資源の循環をすすめる （3Rの推進やごみの分別など）	2	1	0	-1	-2	2	1	0	-1	-2

資料 4-2

① 年齢別の集計結果

4項目とも満足度よりも期待値が高い傾向があり、回答者が4項目の向上を望んでいることが示唆された。年齢別にみると、満足度や期待度は若年層が高く、高齢層が低い傾向が明らかになった。

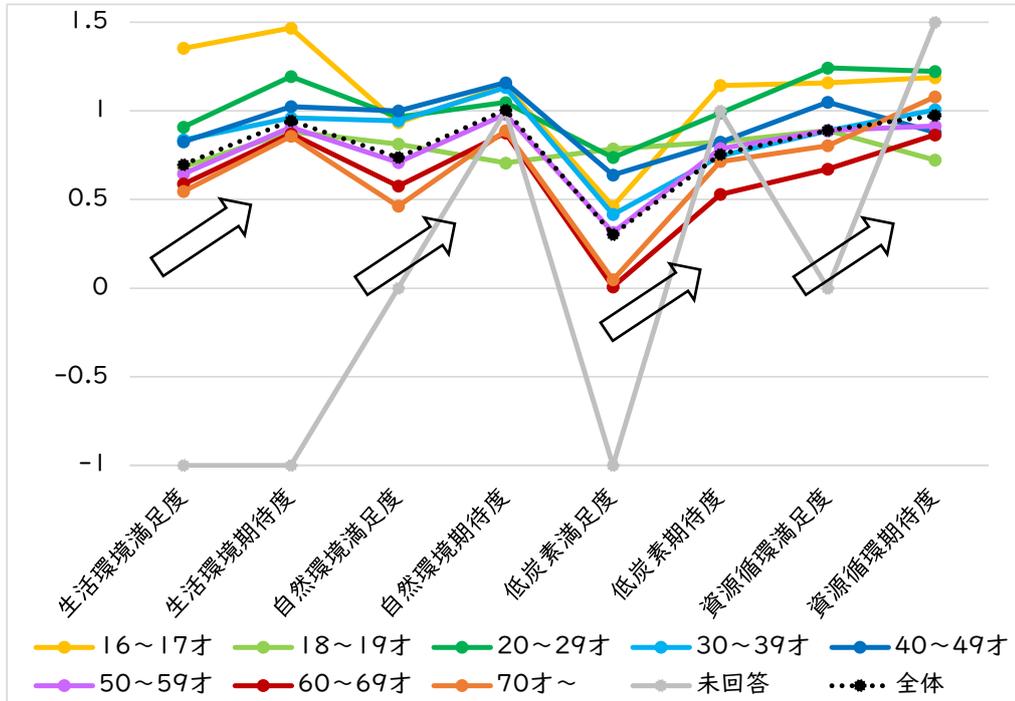


図 環境の現状に関する満足度・期待度

② 性別の集計結果

平均値を性別で見ると、男女の差は小さかったが、満足度、期待度ともに全項目で“女 > 男”であった。

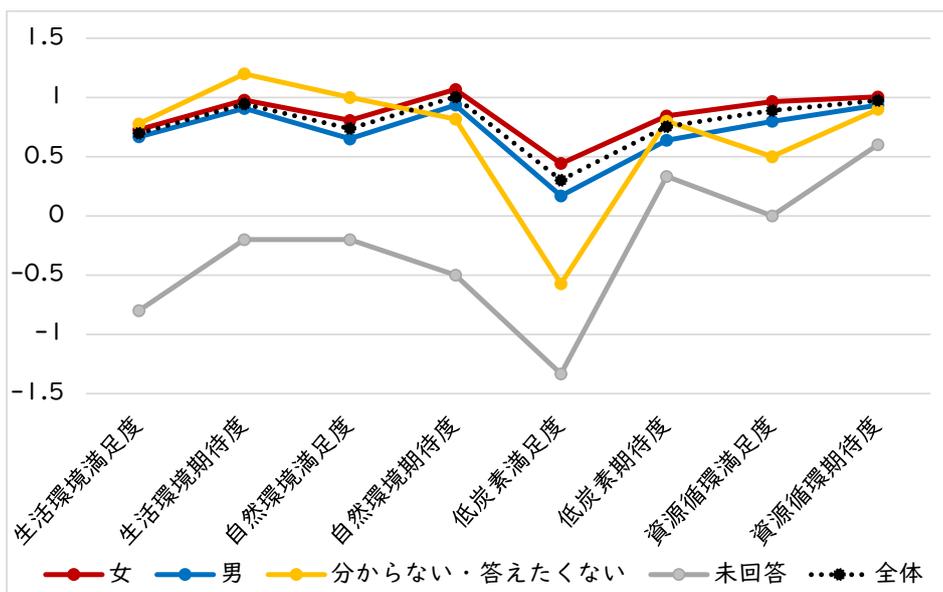


図 環境の現状に関する満足度・期待度 (性別)

③ 小学校区別の集計結果

小学校区別に平均スコアを集計し、概ね同数になるよう4つに区分した。

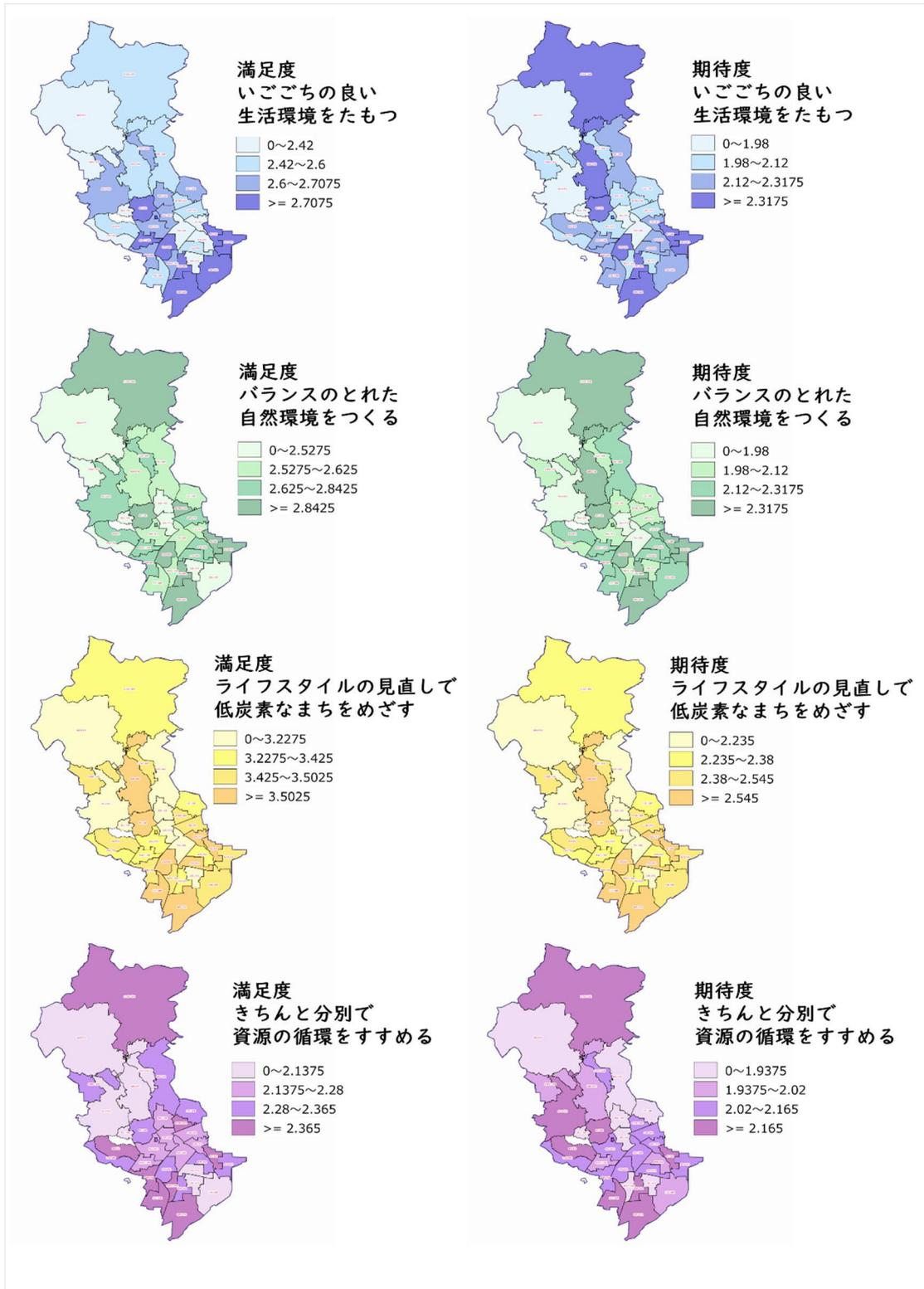


図 環境の現状に関する満足度・期待度（小学校区別）

④ 経年比較の結果

満足度は4項目（生活環境、自然環境、低炭素、資源循環）すべてでH30年度を大きく上回った。期待度は4項目すべてでH30年度をやや上回り、概ね60%と高い割合が引き続き期待していた。ただし、これは回答の選択肢が下表の様に変わったことに起因し、H30年度の回答で大きい割合を占めた“普通”が配分された結果の増加であり、単純比較はできないと考えた。

項目別にみると、低炭素の満足度、期待度が他3項目より低いことから、啓発や施策の充実が課題である。

表 回答の選択肢の違い

H30年度	R5年度
大変満足	満足
どちらかといえば満足	やや満足
普通	—
どちらかといえば不満	やや不満
大変不満	不満
—	わからない

なお、アンケートの選択肢は、R5年度とH30年度で若干異なったため、図の凡例では平成30年度分を（ ）内表記した。

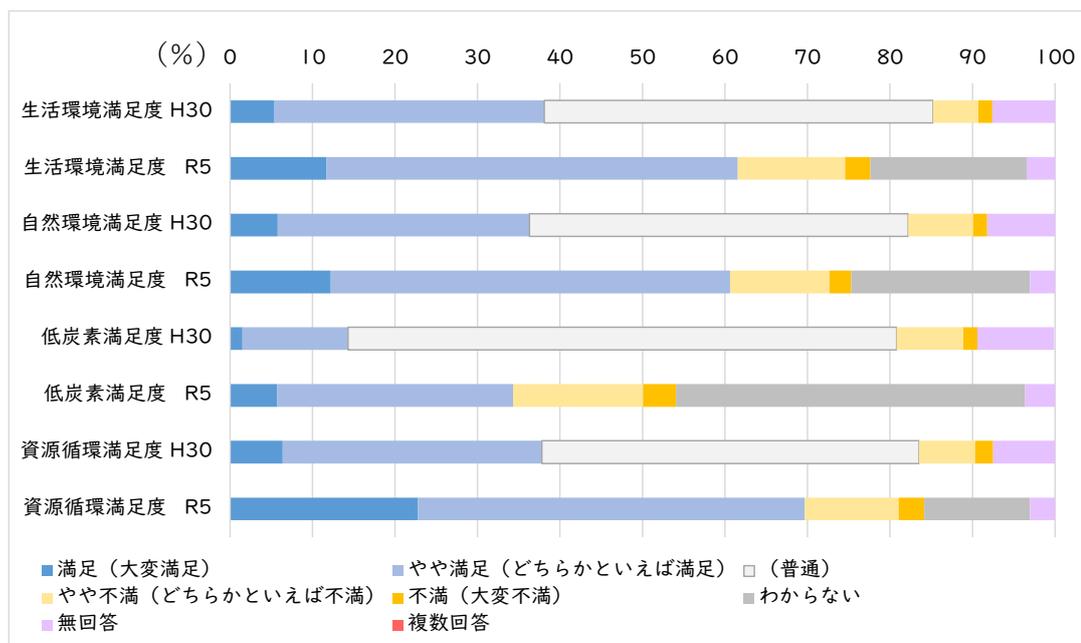


図 環境の現状に関する満足度の経年変化

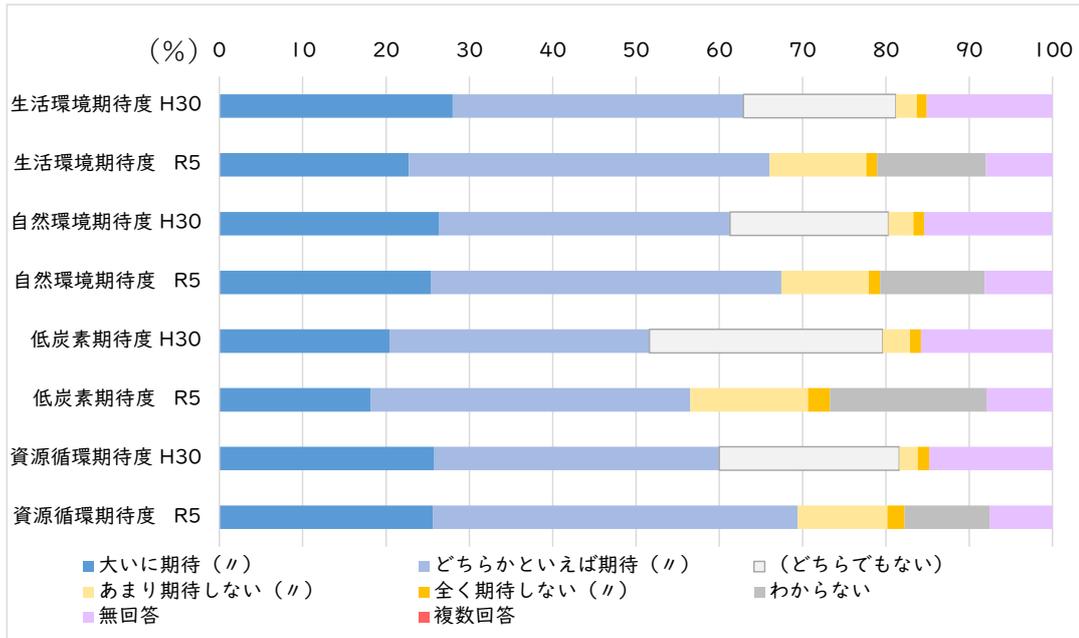


図 環境の今後の充実への期待度の経年変化

■参考 (総合計画アンケート報告書の該当ページ)

環境に関する取組

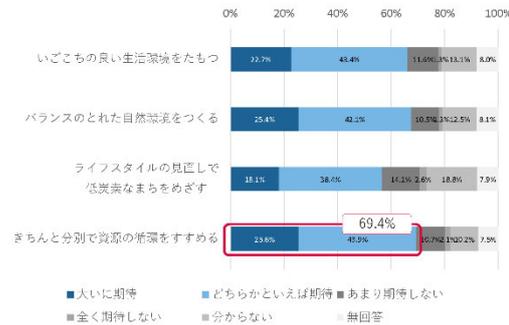
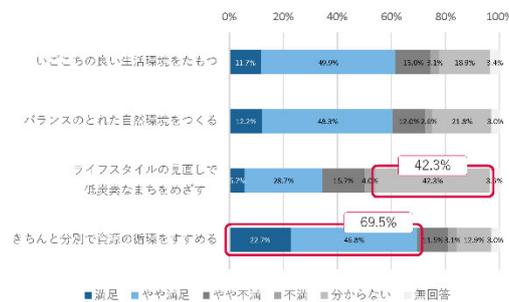
満足度	期待度
-----	-----

茨木市の環境について現状の満足度について質問を行った。

茨木市の環境について今後の期待度について質問を行った。

「きちんと分別で資源の循環をすすめる」が「満足」、
「やや満足」の計が69.5%と最も多くなっている。
また、「ライフスタイルの見直しで低炭素なまちをめざす」は、「分からない」が42.3%と高い割合となっている。

「きちんと分別で資源の循環をすすめる」が「大いに期待」、
「どちらかといえば期待」の計が69.4%と最も多くなっている。



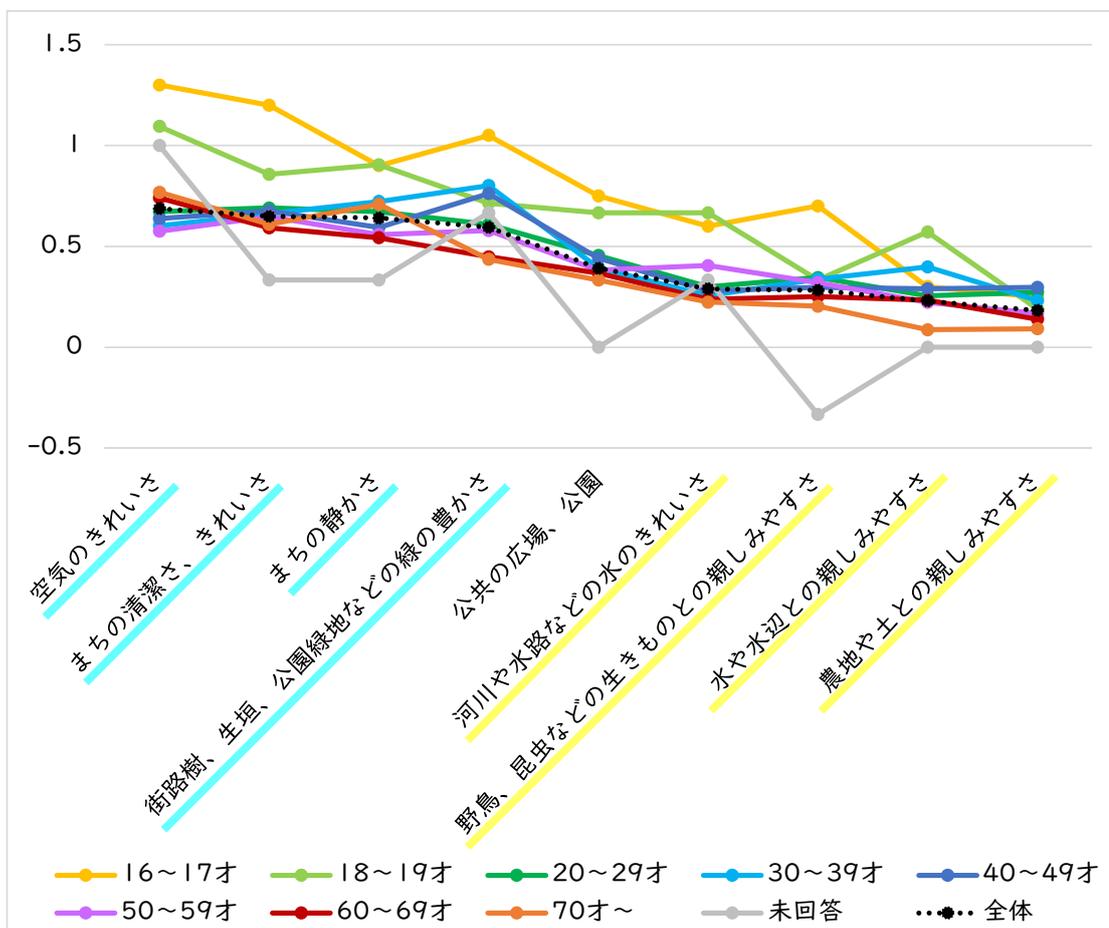
資料 4-2

問 31 住まいの周辺の環境に対する満足度について、あなたの考えに最も近いものを教えてください。（各項目、あてはまるもの1つに○）

設問の回答を下表のとおり点数化し、1～9の項目の満足度と期待度の平均値をグラフ化した。

表 問 31 の回答の点数表

満足	やや満足	わからない	やや不満	不満
2	1	0	-1	-2
2	1	0	-1	-2
2	1	0	-1	-2
2	1	0	-1	-2



* 項目の順序は全体平均値順

図 住まいの周辺環境に関する満足度スコア（年齢別）

① 平均値の集計結果

9項目とも平均値が0を上回っており、満足度は良い～普通であることが示された。比較的満足度が高かった項目は、“空気のきれいさ”、“まちの静かさ”、“まちの清潔さ、きれいさ”、“緑の豊かさ”であった（水色下線）。一方で、比較的満足度が低かったのは、“河川や水路などの水のきれいさ”、“水や水辺との親しみやすさ”、“農地や土との親しみ

資料 4-2

やすさ”、“野鳥、昆虫などの生きものとの親しみやすさ”であった（黄色下線）。

比較的満足度が高かった 4 項目は生活環境項目が多く、比較的満足度が低かったのは自然環境項目であった。満足度が“生活環境”>“自然環境”の傾向は、問 30 の結果と逆になったが、より具体的な本質問で満足度が低かった項目は茨木市の課題と考えられる。

② 年齢別の集計結果

年齢別にみると、満足度や期待度は若年層が高く、高齢層が低い傾向が明らかになった。

③ 小学校区別の集計結果

小学校区別に平均スコアを集計し、概ね同数になるよう4つに区分した。

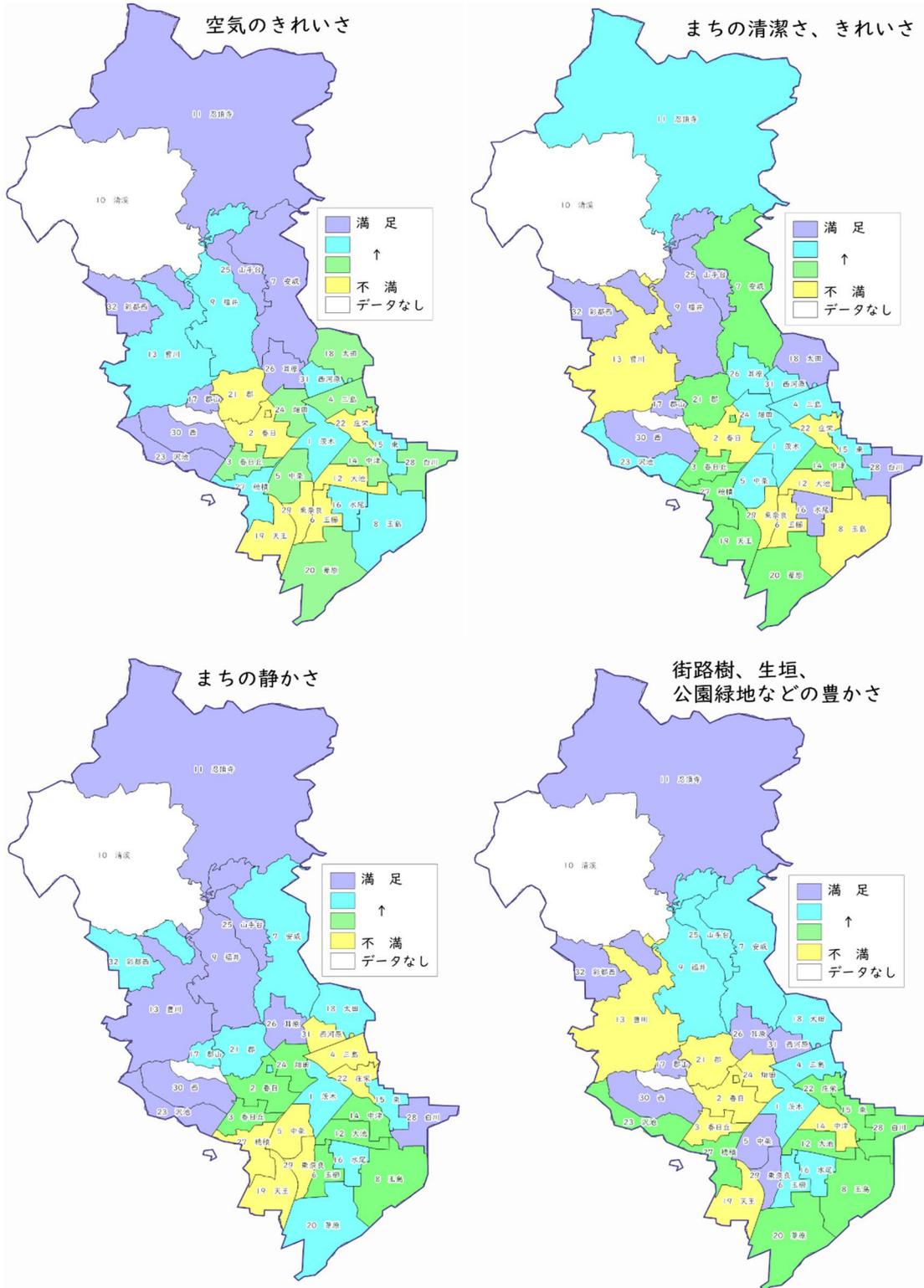


図 住まいの周辺環境に関する満足度（満足度が相対的に高い4項目）

資料 4-2

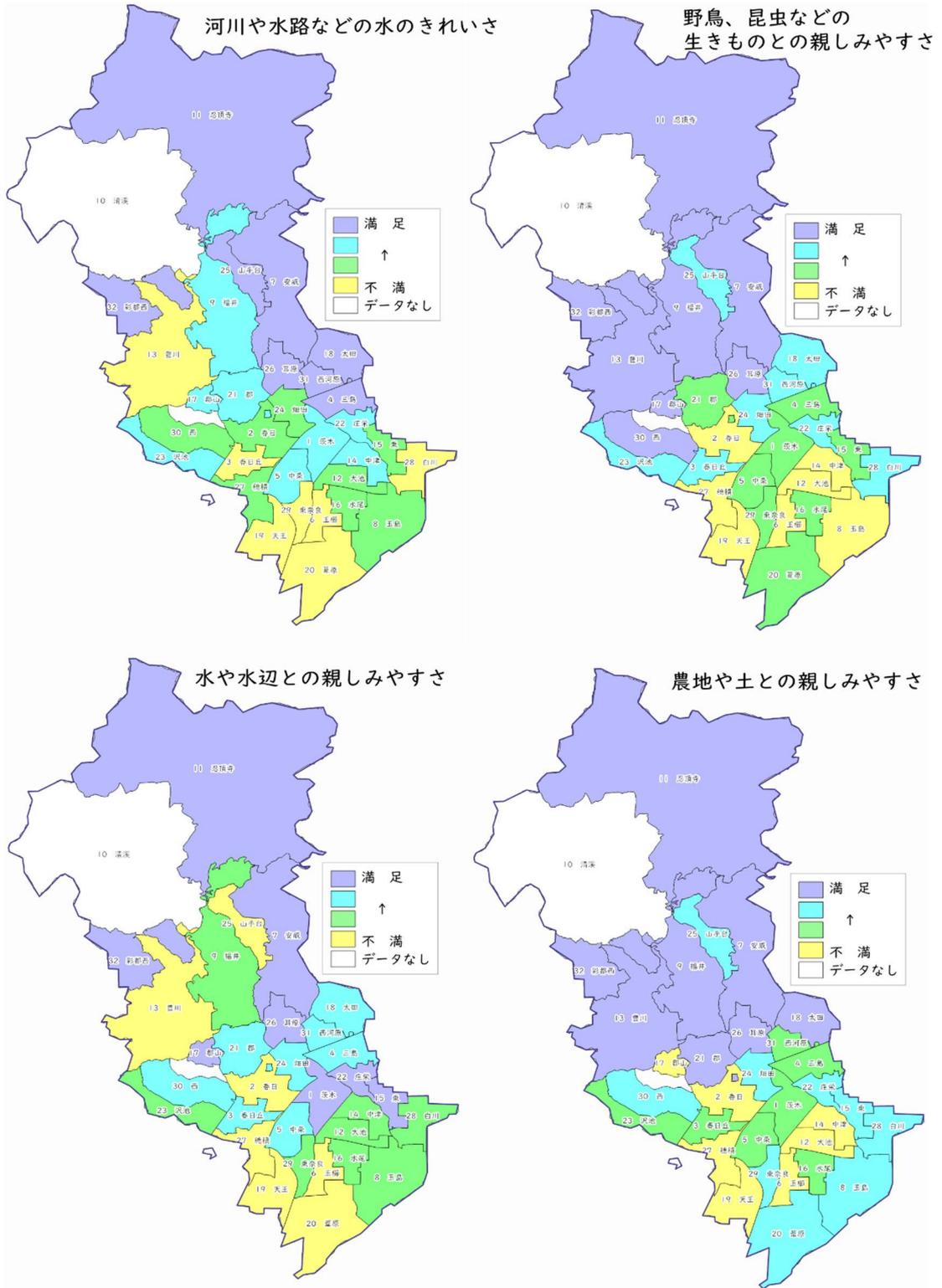
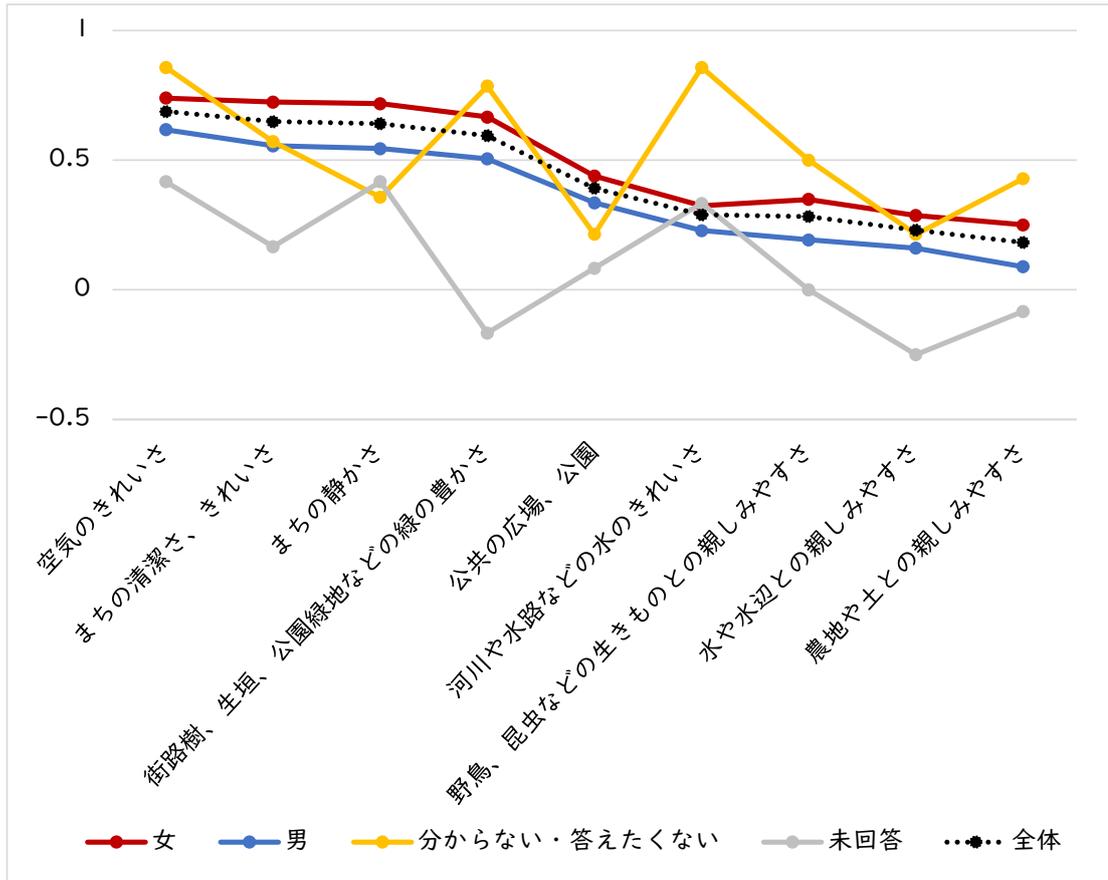


図 住まいの周辺環境に関する満足度（満足度が相対的に低い4項目）

④ 性別の集計結果

性別に平均値みると、男女の差は小さかったが全項目で満足度は“女>男”であった。



* 項目の順序は全体平均値順

図 住まいの周辺環境に関する満足度スコア (性別)

⑤ 経年比較の結果

全項目で“満足”と“やや満足”が H24 年度を大きく上回った。ただし、これは回答の選択肢が下表の様に変わったことに起因し、H24 年度の回答で大きい割合を占めた“普通”が配分された結果の増加であり、比較はできないと考えた。

表 回答の選択肢の違い

H24 年度	R5 年度
大変満足	満足
どちらかといえば満足	やや満足
普通	—
どちらかといえば不満	やや不満
大変不満	不満
—	わからない

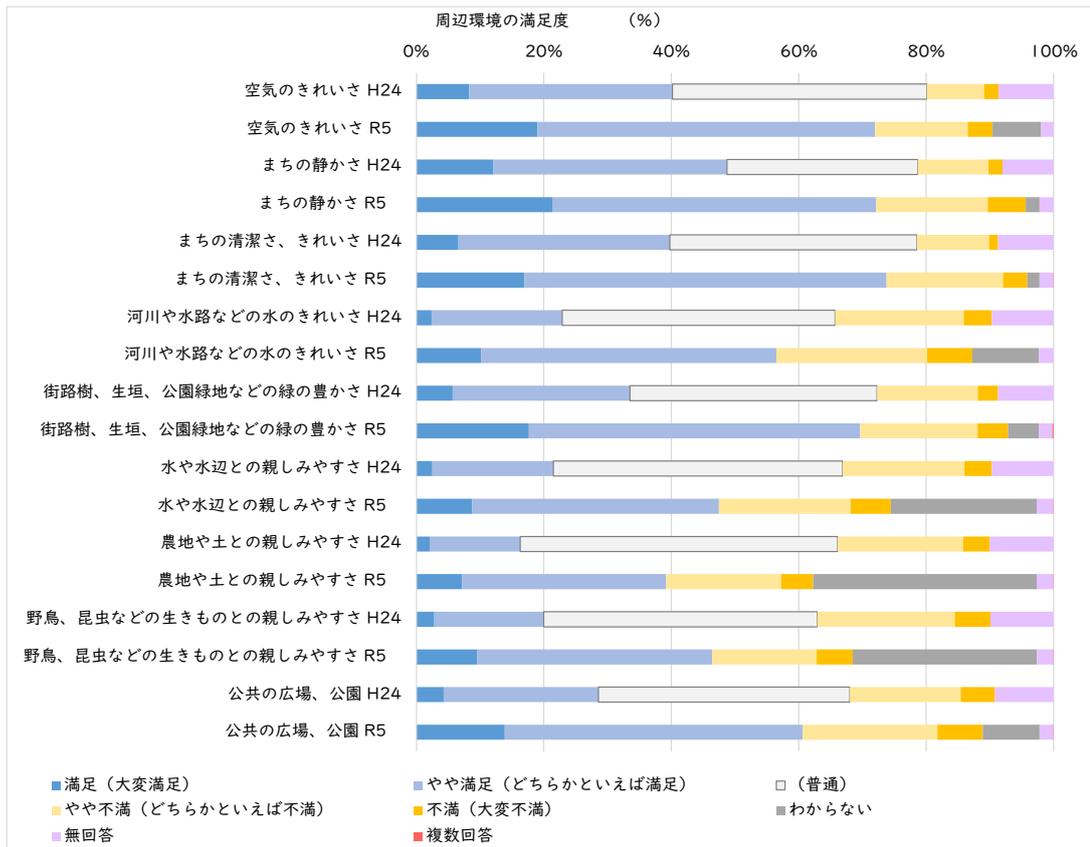
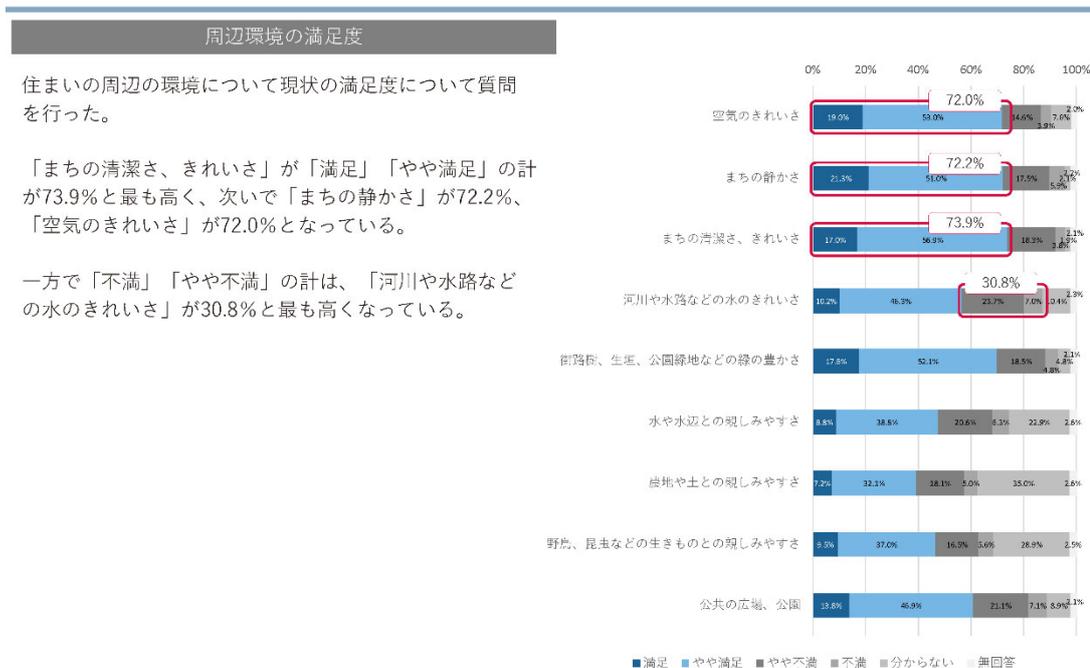


図 住まいの周辺環境に関する回答割合の経年変化

■参考（総合計画アンケート報告書の該当ページ）

環境に関する取組



資料 4-2

問 32 環境配慮行動に関心がありますか。また、行動に取り組んでいますか。(各項目、あてはまるもの1つに○)

設問の回答を下表のとおり点数化し、1～9の項目の満足度と期待度の平均値をグラフ化した。

表 問 32 の回答の点数表

関心					取組状況				
とても関心がある	やや関心がある	わからない	あまり関心がない	全く関心がない	すでにやっている	これからやってみたい	わからない	やりたいができない	やりたくない
2	1	0	-1	-2	2	1	0	-1	-2
2	1	0	-1	-2	2	1	0	-1	-2
2	1	0	-1	-2	2	1	0	-1	-2
2	1	0	-1	-2	2	1	0	-1	-2

① 平均値の集計結果

取組状況の点数が比較的高かったのは“ごみ減量”、“節電行動”、“公共交通機関”、“ごみ分別”であり、取組状況の点数が低かったのは、“太陽光発電・蓄電池など”、“電動車”であった。

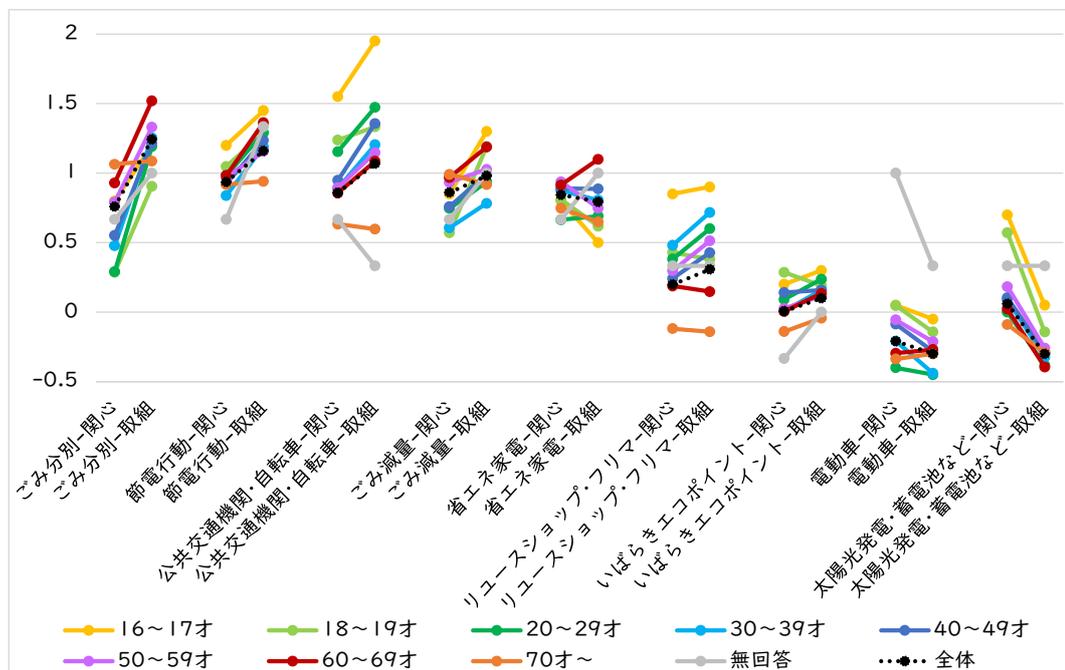


図 環境配慮行動への関心・取組状況スコア（年齢別）

② 年齢別の集計結果

年齢別にみると、項目ごとに年齢層に違いが見られた。60才以上はごみ減量”、“省エネ家電”で点数が高いが、それ以外の項目は点数が低かった。

③ 住宅種類別の集計結果

住宅種類別にみると、点数が低い“電動車”はいずれの住居種類でも関心・取組の点数が低く、持ち家と賃貸・社宅・寮に大きな違いは見られなかった。“太陽光発電・蓄電池など”は、賃貸・社宅・寮が持ち家よりやや関心が高いが、取り組まれていない状況が明らかになった。状況の改善が課題であり、啓発や優遇策など政策的後押しが必要と考えられる。

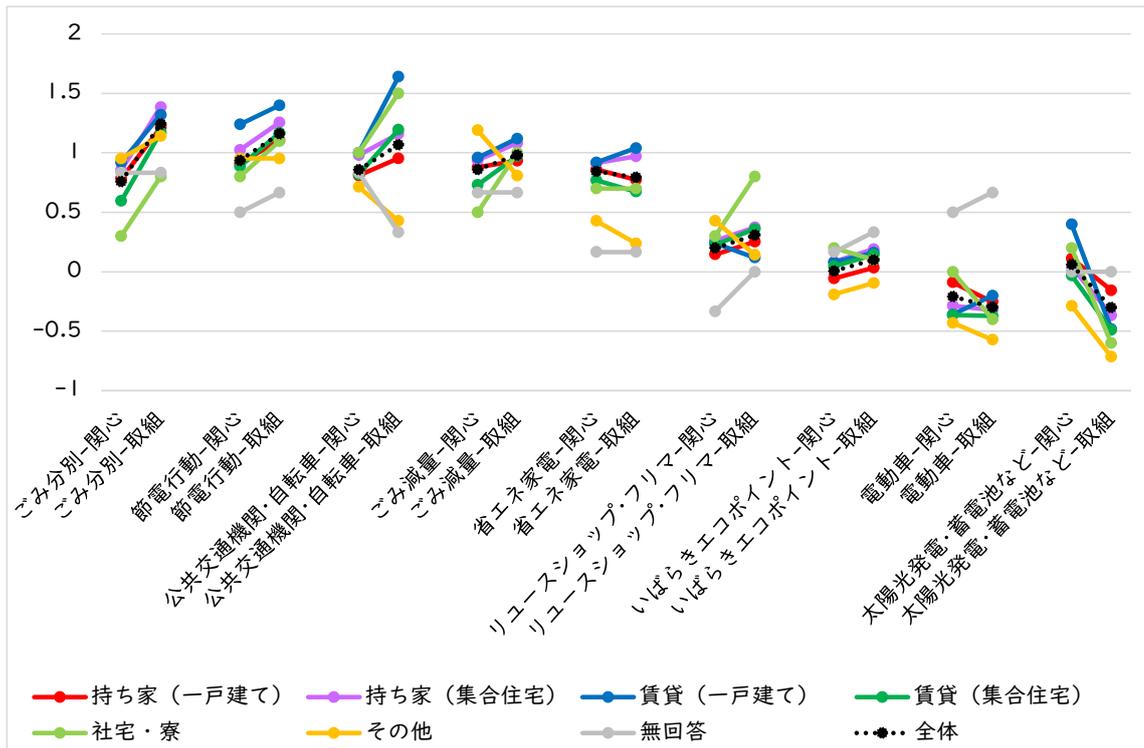


図 環境配慮行動への関心・取組状況スコア (住宅種類別)

④ 経年比較の結果

環境配慮行動への関心（“とても関心がある”と“やや関心がある”の合計）は、平成 25 年度よりも概ね高まった。多くの項目で“満足”と“やや満足”が H24 年度を大きく上回った。ただし、これは回答の選択肢が下表の様に変わったことに起因し、H24 年度の回答の“どちらともいえない”が配分された結果の増加であり、比較はできないと考えた。

項目別に見ると、“電動車の導入”と“太陽光発電、蓄電池などの設置”では関心が低くなっており、啓発や導入に向けた政策支援が課題である。

なお、経年比較は、R5 年度と H24 年度で内容が同じか近い設問のみを比較した。

表 関心の回答の選択肢の違い

H24 年度	R5 年度
とても関心がある	とても関心がある
どちらかといえば関心がある	やや関心がある
どちらともいえない	—
あまり関心がない	あまり関心がない
全く関心がない	全く関心がない
—	わからない

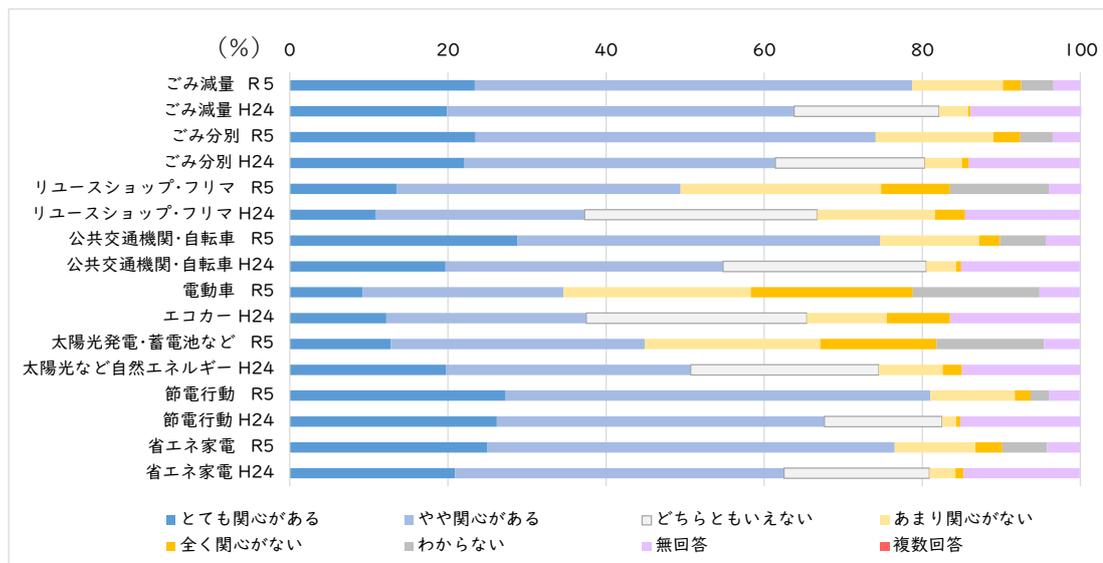


図 環境配慮行動への関心の経年変化

環境配慮行動への取組（“すでにやっている”と“これからやってみたい”の合計）は、平成 25 年度よりも概ね高まった。ただし、“電動車の導入”と“太陽光発電、蓄電池などの設置”では取組の割合が低くなっており、導入に向けた政策支援が課題である（いばらきエコポイントの見直し、個人向け補助金制度、法人向け補助金・優遇制度、公共施設への充電設備設置など）。

なお、経年比較は、R5 年度と H24 年度で内容が同じか近い設問のみを比較した。

資料 4-2

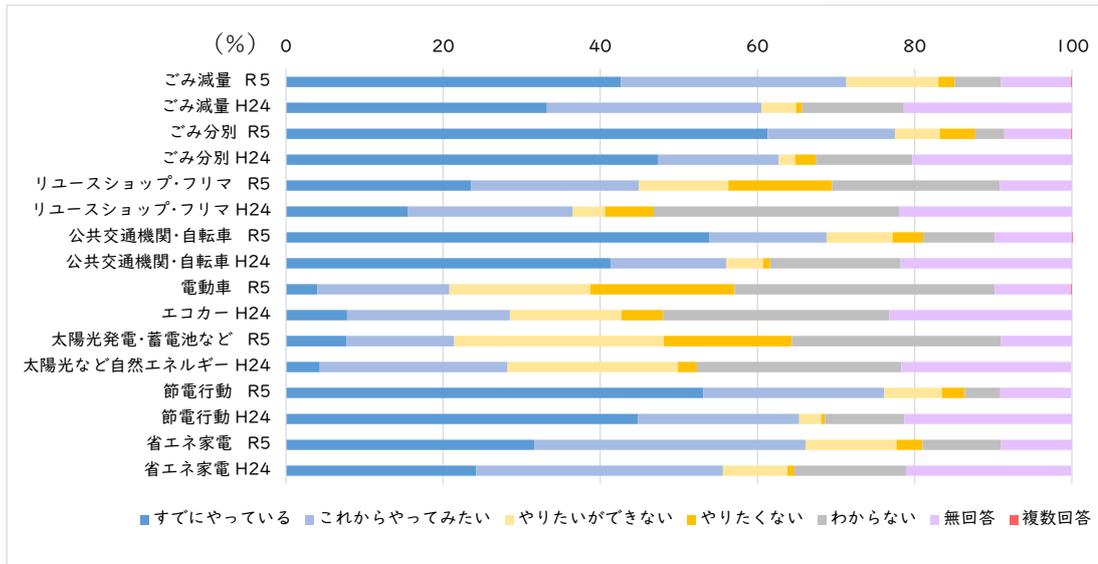


図 環境配慮行動への取組状況の経年変化

⑤ 環境学習の効果

“環境配慮行動への関心”と問 37“体験学習”の参加の関係を整理した結果、体験学習参加者は環境に取り組む割合が高いことが示された。

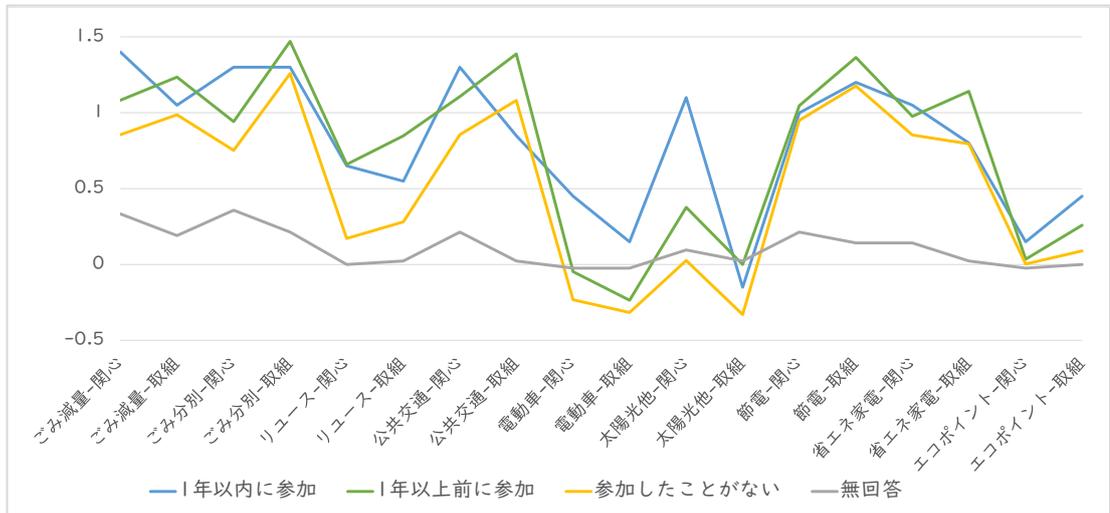


図 環境配慮行動への取組状況と体験学習（気候変動）の関係

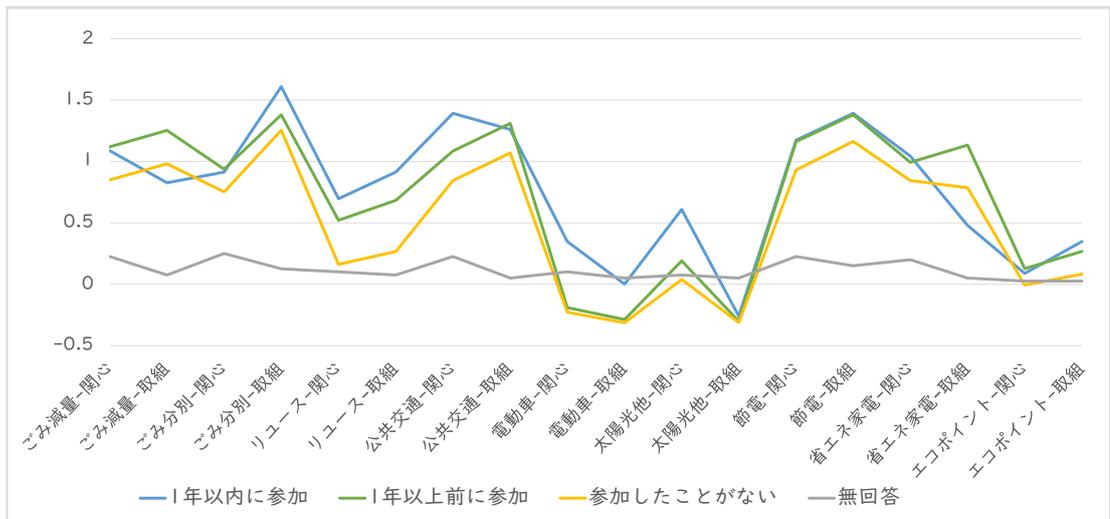
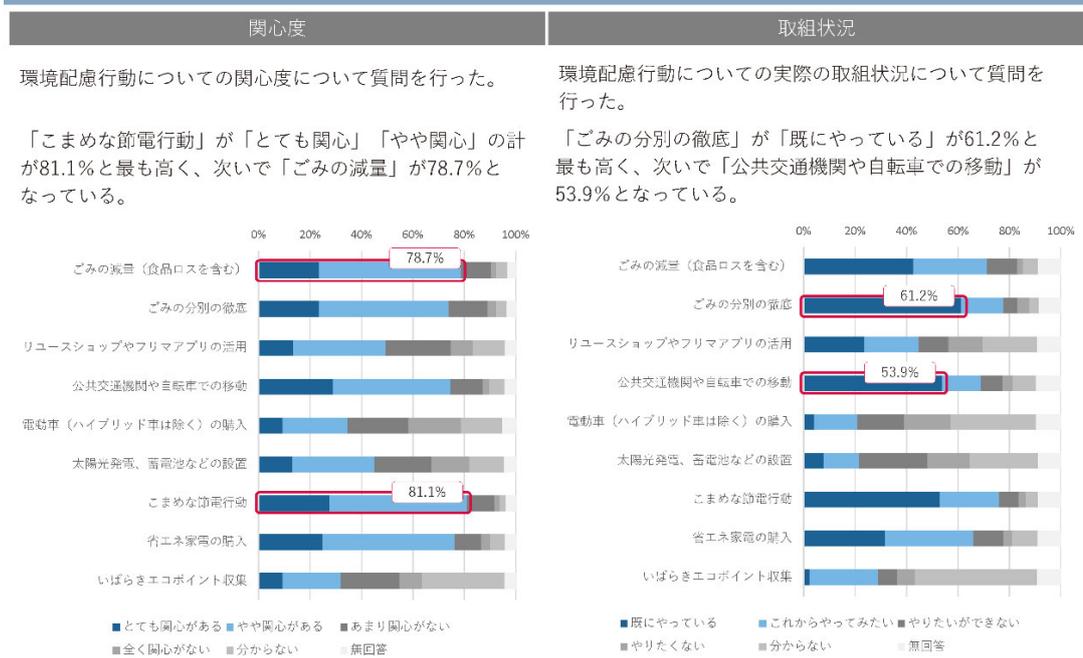


図 環境配慮行動への取組状況と体験学習（資源循環）の関係

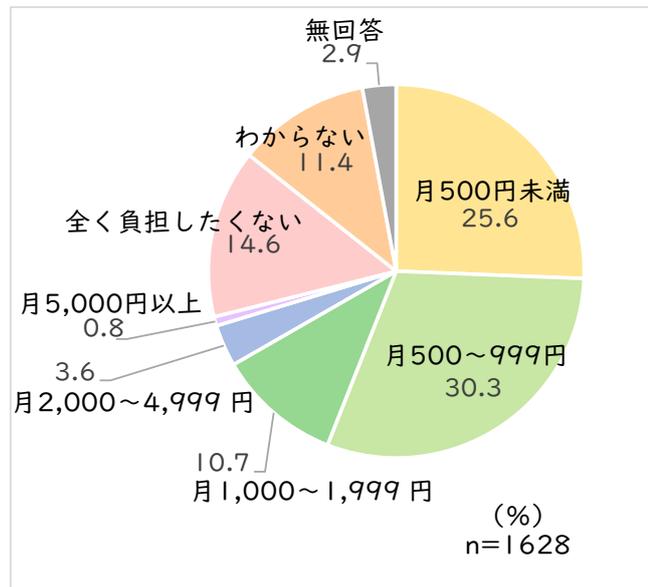
■参考（総合計画アンケート報告書の該当ページ）

環境に関する取組



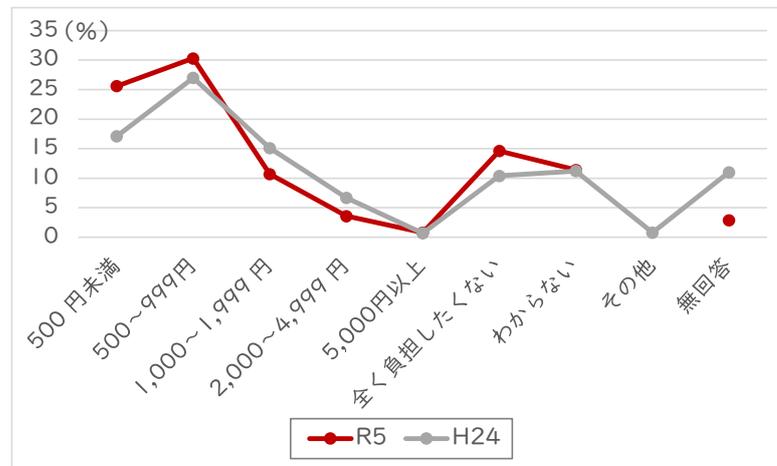
資料 4-2

問 33 環境活動に取り組むために、あなたはどの程度なら家計の負担が増えても良いと考えますか。あなたの考えに最も近いものを教えてください。（あてはまるもの1つに○）



① 経年比較の結果

経年比較の結果、平成25年度よりも環境活動のための家計負担許容額は、減少した。



* H24年度にのみ選択肢“その他”があった。

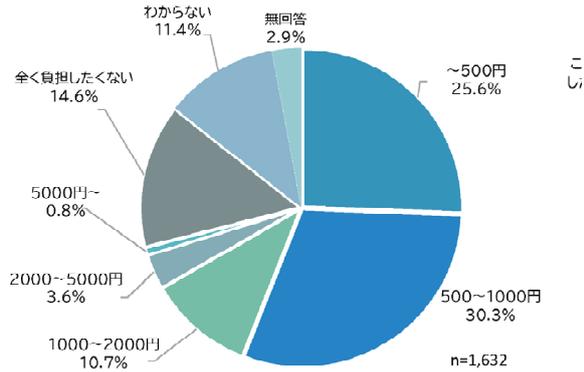
図 家計負担の許容額の経年変化

■参考（総合計画アンケート報告書の該当ページ）

環境活動のための家計負担

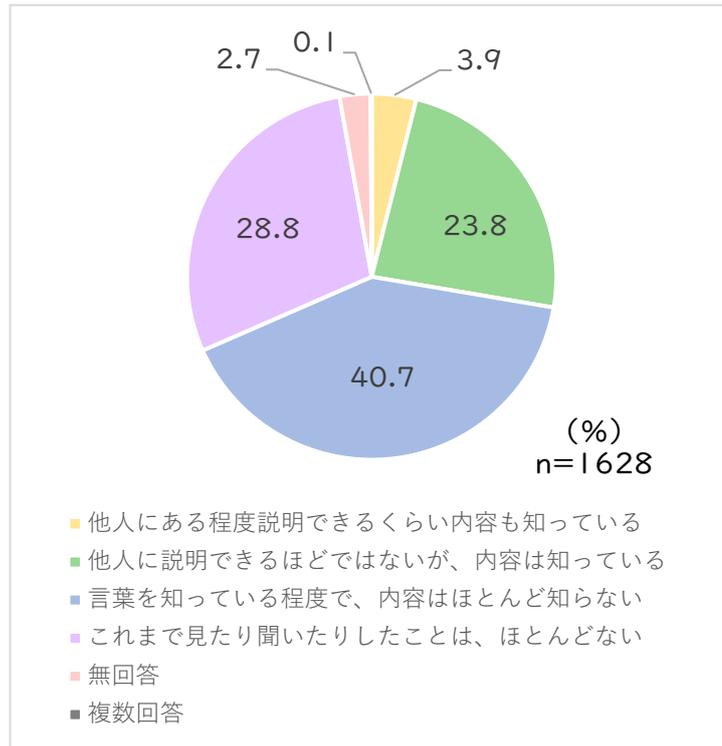
環境活動のため、どの程度家計の負担が増えてもいいかについて質問を行った。

「500円以上1,000円未満」が30.3%と最も多く、次いで「500円未満」が25.6%、「全く負担したくない」が14.6%となっている。



問 34 あなたは、「生物多様性」についてどの程度ご存じですか。（あてはまるもの1つに○）

内容を知らないまたはほとんど知らない人が 69.5%であり、市民の認知度が低いことが明らかになった。



① 年齢別の集計結果

年齢別に見ると、高齢者ほど認知度が低い傾向があった。高齢者を含む成人を市民講座やイベントに誘致する工夫や、広報いばらきでの高頻度・高密度に情報発信すること課題である。

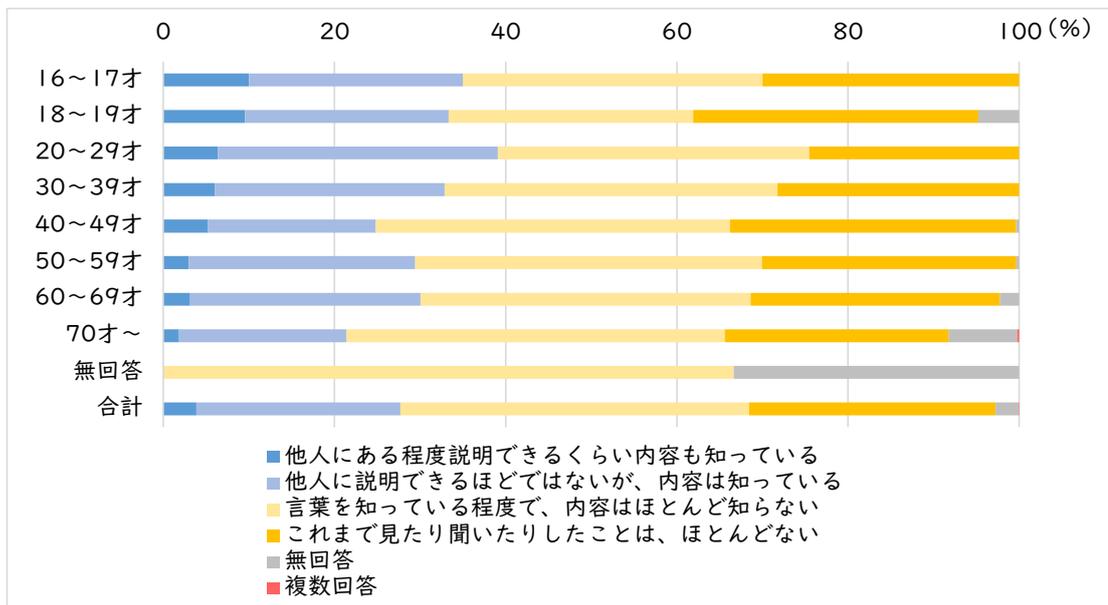


図 生物多様性の認知度 (年齢別)

② 小学校区別の集計結果

小学校区別に平均スコアを集計し、概ね同数になるよう4つに区分した。

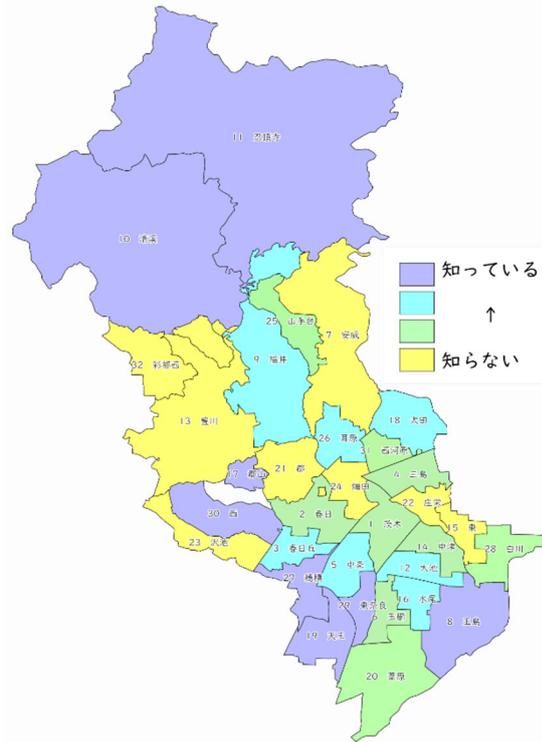


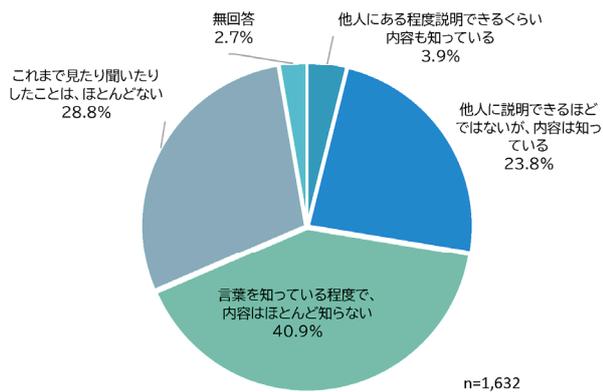
図 生物多様性の認知度（小学校区別）

■参考（総合計画アンケート報告書の該当ページ）

生物多様性

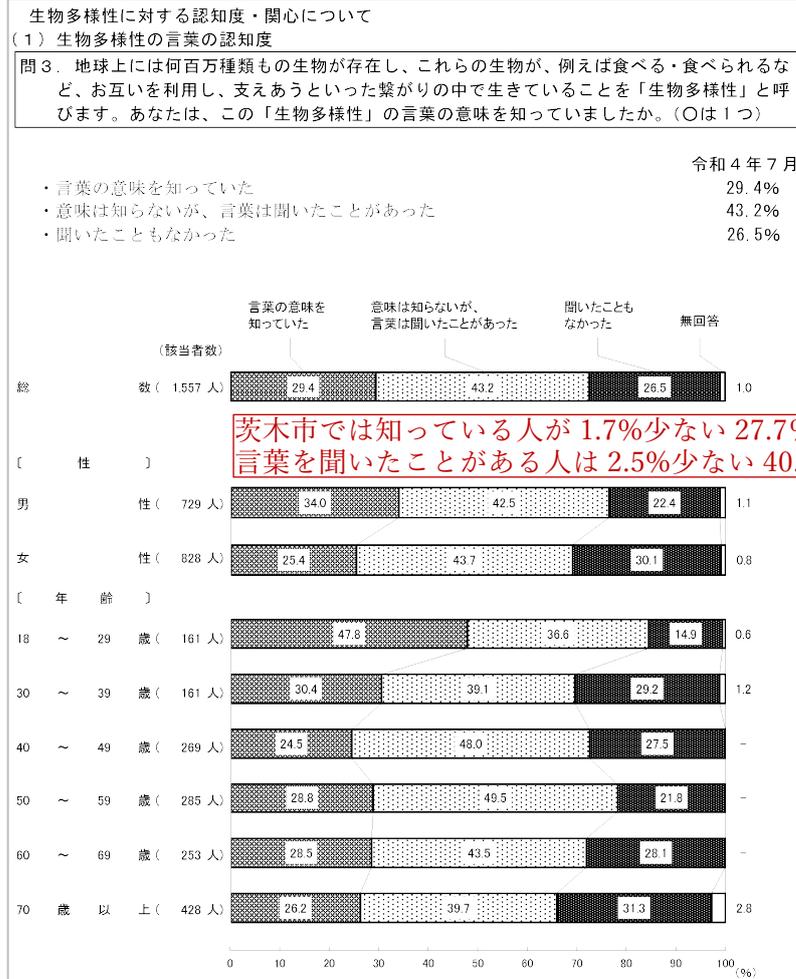
生物多様性の認知度について質問を行った。

「言葉を知っている程度で、内容はほとんど知らない」が40.9%と最も多く、次いで「これまで見たり聞いたりしたことは、ほとんどない」が28.8%となっている。

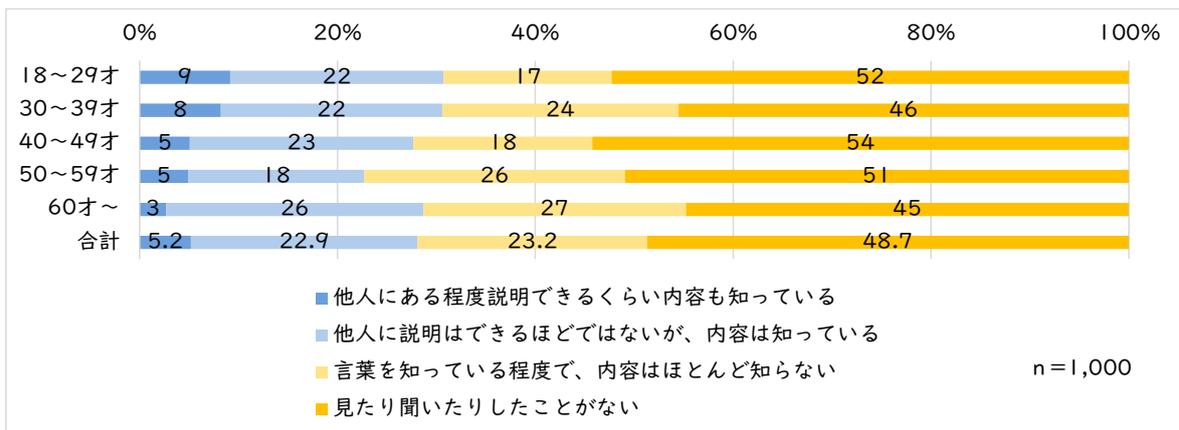


■参考（生物多様性に関する世論調査（令和4年7月調査,内閣府）の類似質問結果）

資料 4-2



■参考 (生物多様性に関する世論調査 (令和5年調査,大阪府) の類似質問結果)
 大阪府政策マーケティング・リサーチ「おおさかQネット」(R5)



茨木市では“他人にある程度説明できるくらい内容も知っている”が1.3%少ない3.9%、“他人に説明できるほどではないが、内容は知っている”が0.9%多い23.8%、“言葉を知っている程度で、内容はほとんど知らない”が17.5%多い40.7%であった。大阪府内では茨木市民の生物多様性の認知度は高いと言える。

資料 4-2

問 35 次の生物多様性に関することで、あなたが知っているものすべてに○をつけてください。

“外来生物の悪影響”や“森林やサンゴ礁の減少”を認知度が高かった反面、より身近な生物多様性に係る内容である“レッドリスト”、“里地里山の重要性”、“生態系サービス”の認知度が比較的低かった。茨木市の自然と関連付けた生物多様性の普及が課題である。

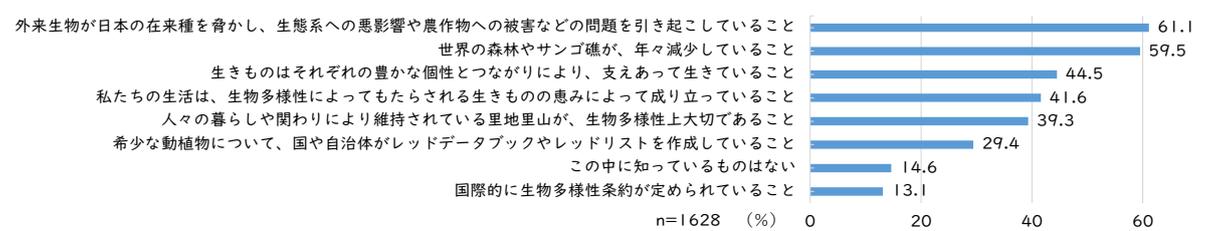


図 生物多様性に係るの認知割合

■参考（総合計画アンケート報告書の該当ページ）

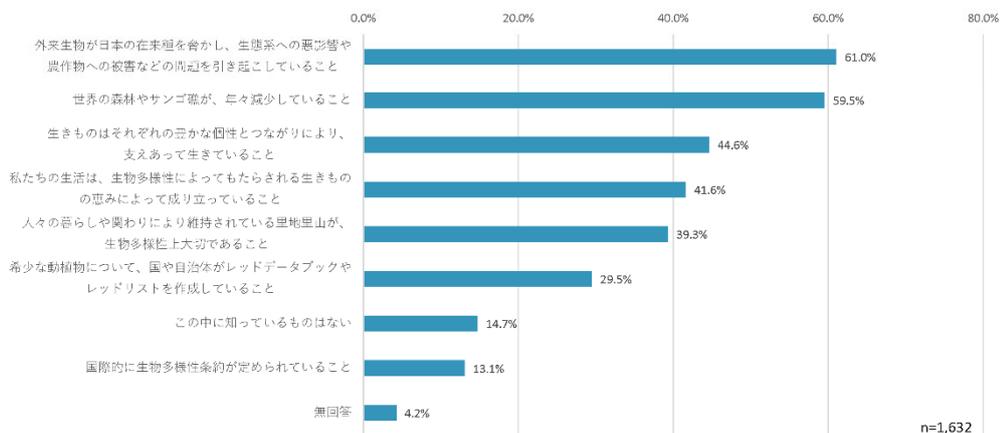
環境に関する取組

52

生物多様性

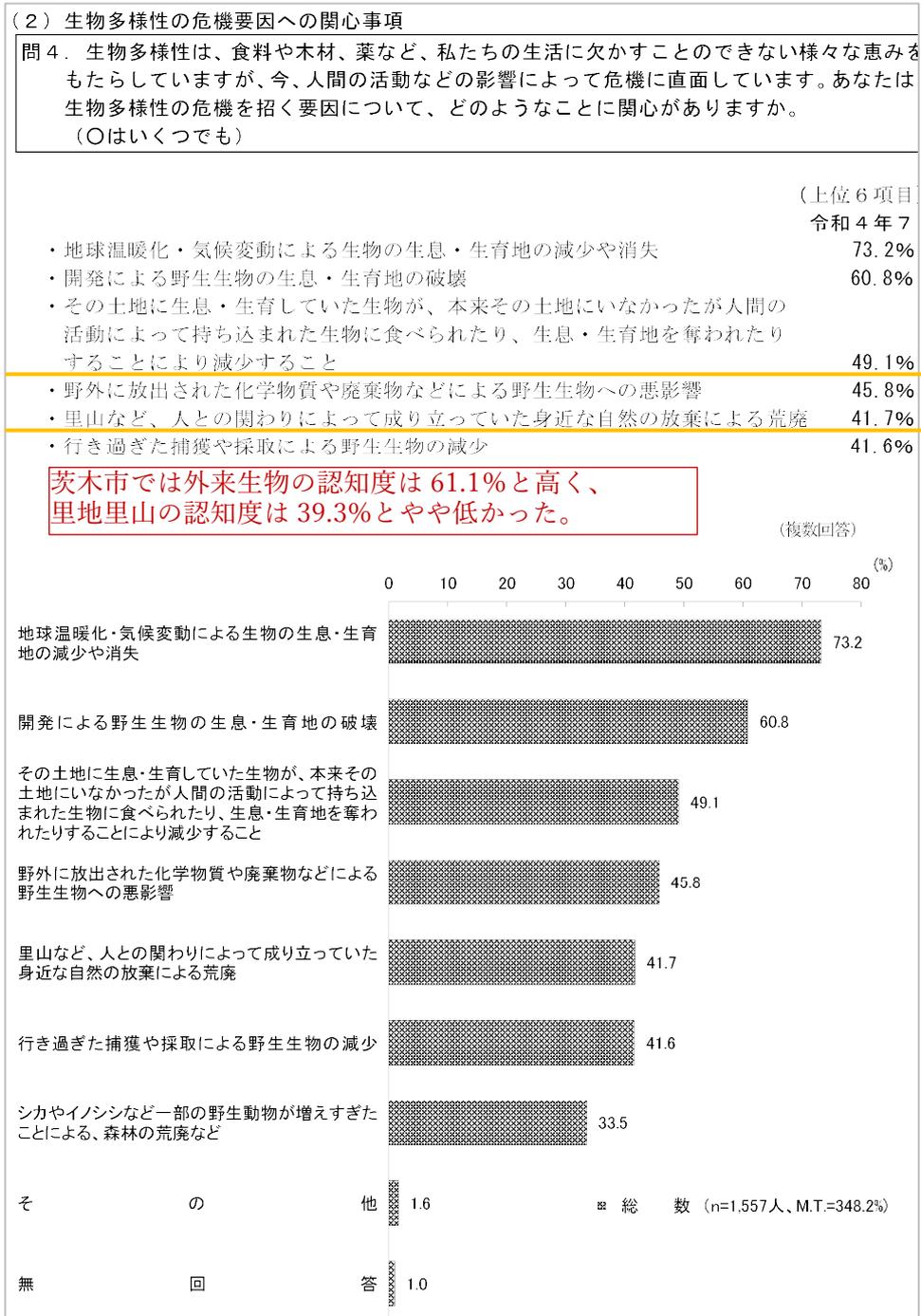
生物多様性の内容について、知っているものがあるかについて質問を行った。（あてはまるもの全てに○）

「外来生物の影響」が61.0%と最も多く、次いで「サンゴ礁の減少」が59.5%となっている。



資料 4-2

■参考（生物多様性に関する世論調査（令和4年7月調査,内閣府）の類似質問結果）



4 環境教育・学習について

問 36 あなたは、以下のような「座学のみ」の講習、勉強会、オンラインセミナーなどに参加したことがありますか。（各分野、あてはまるもの1つに○）

参加経験者の割合は、“生活環境”、“生物多様性”、“気候変動”、“資源循環”の4分野とも8%未満で低かった。

年齢別に見ると、4分野とも16～17才の参加率が比較的高かったが、それ以外の年代は総じて低かった。16～17才は学校教育の内容が影響している可能性があるが、全世代の参加率を向上させることが課題である。

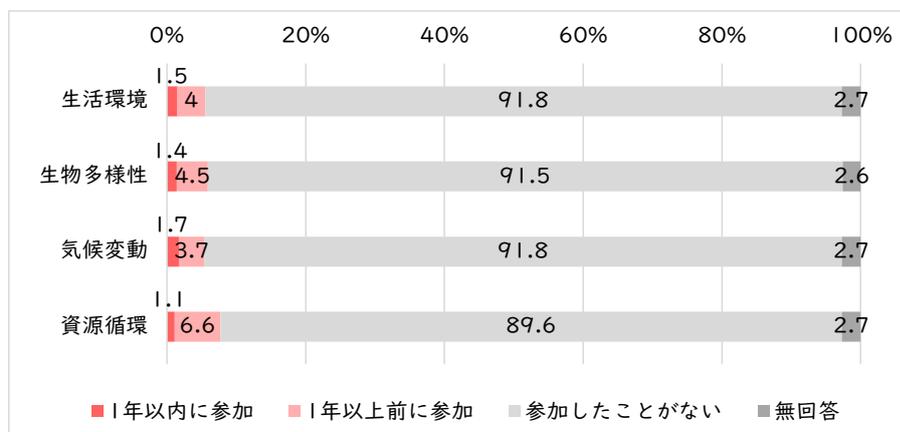


図 座学のための環境学習の参加状況

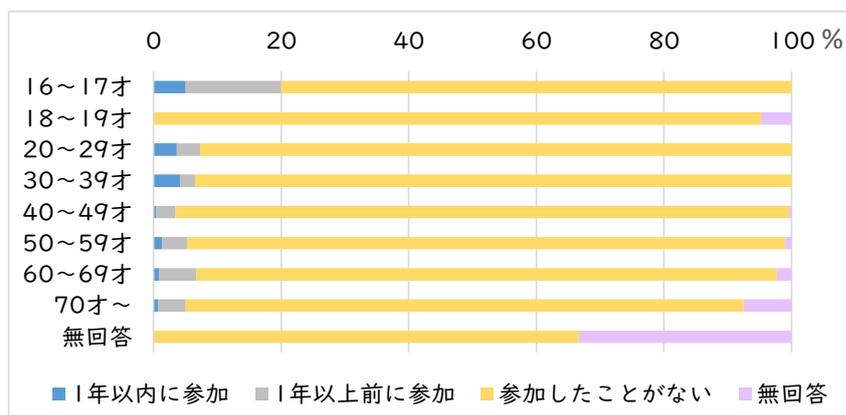


図 生活環境に係る座学のための環境学習の参加状況（年齢別）

資料 4-2

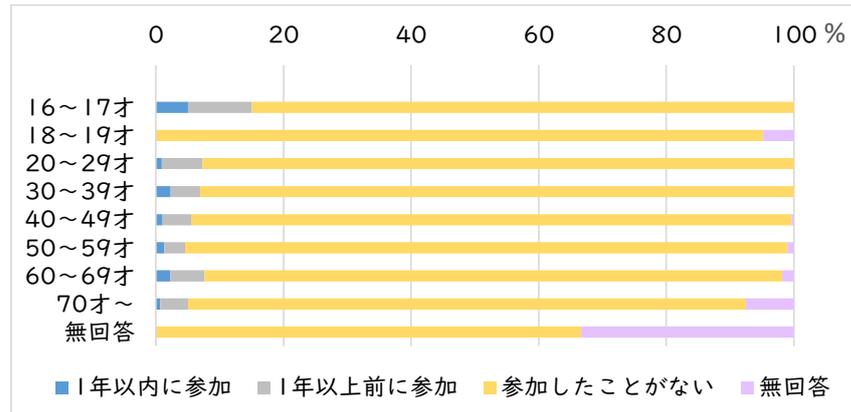


図 生物多様性に係る座学のための環境学習の参加状況（年齢別）

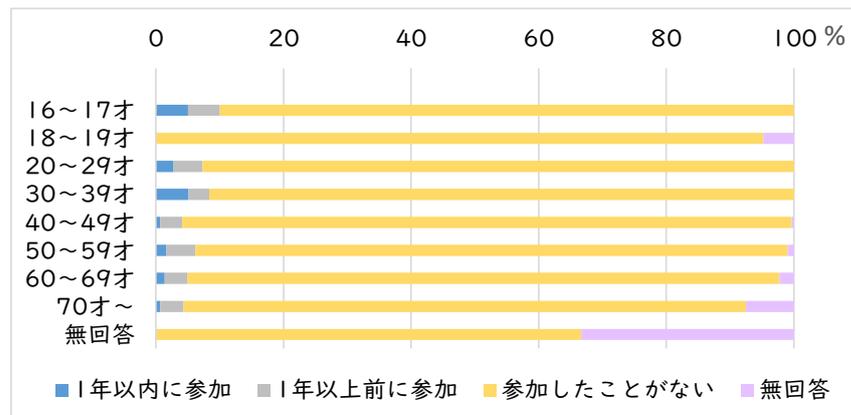


図 気候変動に係る座学のための環境学習の参加状況（年齢別）

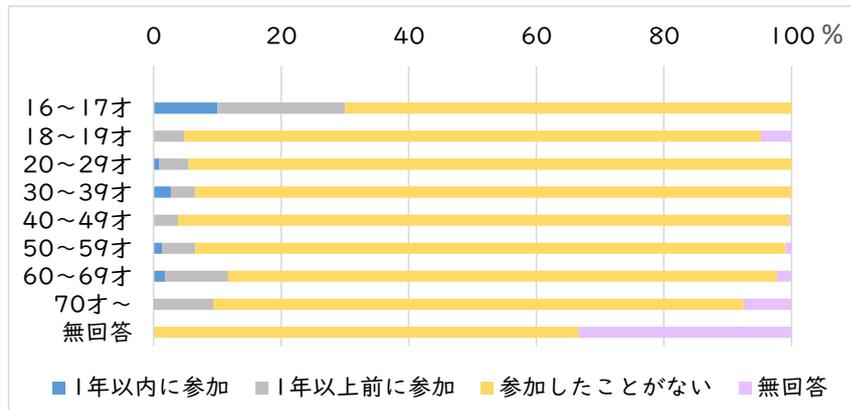


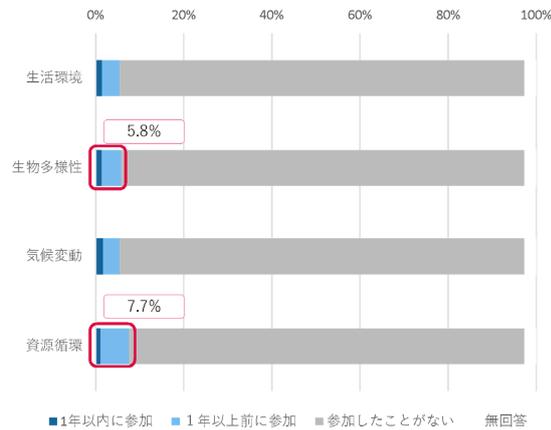
図 資源循環に係る座学のための環境学習の参加状況（年齢別）

■参考（総合計画アンケート報告書の該当ページ）

セミナー等への参加

環境に関する座学のみ講習、勉強会、オンラインセミナーへの参加状況について分野ごとに質問を行った。

「資源循環」に関する勉強会等への参加が7.7%と最も多く、次いで「生物多様性」が5.8%となっている。



問 37 あなたは、以下のような「体験や実習」に参加したことがありますか。（各分野、あてはまるもの1つに○）

参加経験者の割合は、“気候変動”が6.4%と低かったが、“生活環境”、“生物多様性”、“資源循環”は10.1～17.2%であり、座学への参加割合よりも高かった。

年齢別に見ると、4分野とも16～17才の参加率が最も高く、29才までの若年層の参加割合が高いことが明らかになった。

今後の課題として、30才以上の参加機会を増やすこと、

また、「体験や実習」が「座学のみ」よりも参加割合が高かったことから、「体験・実習型」の機会を増やすことが、環境の認知度向上に効果的と考えられた。

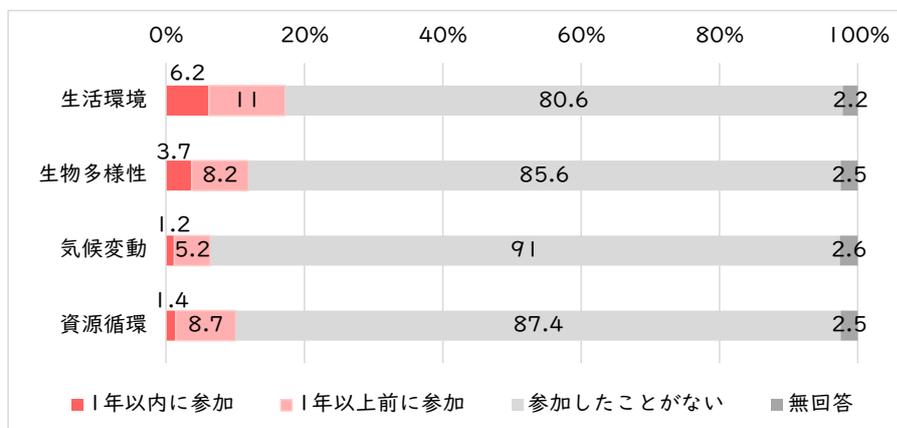


図 体験や学習を伴う環境学習の参加状況

資料 4-2

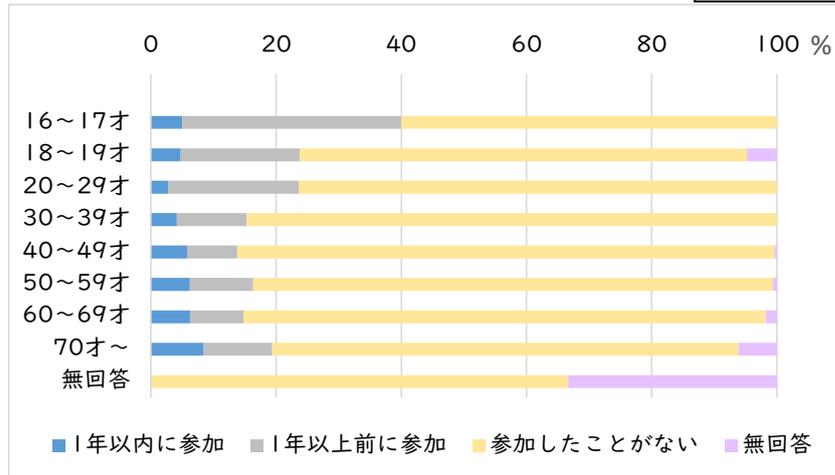


図 生活環境に係る体験や学習を伴う環境学習の参加状況（年齢別）

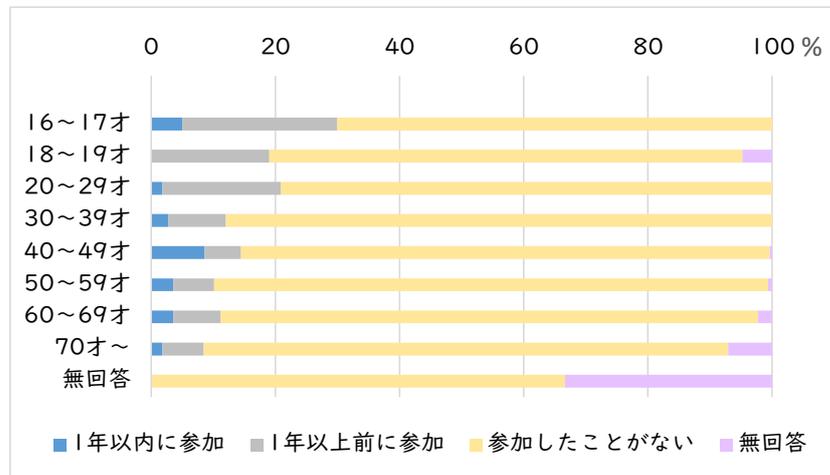


図 生物多様性に係る体験や学習を伴う環境学習の参加状況（年齢別）

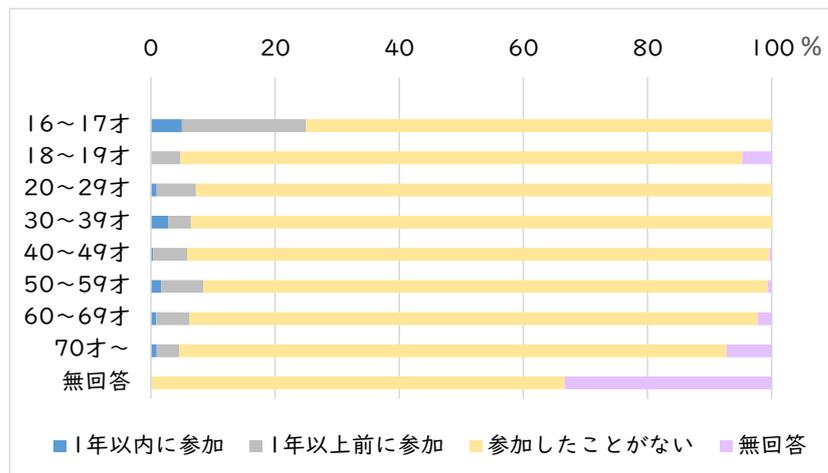


図 気候変動に係る体験や学習を伴う環境学習の参加状況（年齢別）

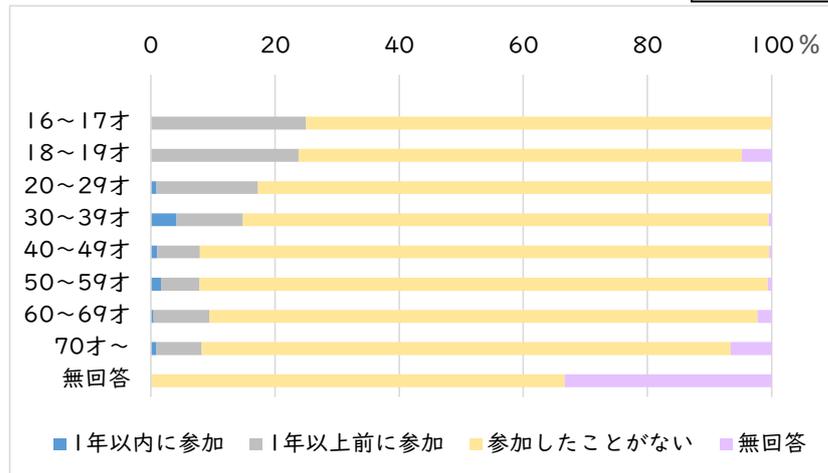


図 資源循環に係る体験や学習を伴う環境学習の参加状況（年齢別）

■参考（総合計画アンケート報告書の該当ページ）

体験や実習等への参加

環境に関する体験会、実習等への参加状況について分野ごとに質問を行った。

「生活環境」に関する体験等への参加が17.2%と最も多く、次いで「生物多様性」が11.9%となっている。

